

## 教育研究業績

2021（令和3）年9月8日

氏名 山田 正行 ㊦

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所・発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p><b>著書</b></p> <p>1. 叢書生涯学習第1巻 自己教育の思想史</p> <p>2. 社会教育の国際的動向</p> <p>3. 叢書生涯学習第3巻 社会教育実践の現在 (1)</p> <p>4. 叢書生涯学習第7巻 成人性の発達</p> <p>5. 叢書生涯学習第6巻 自治の創造と公共性</p> <p>6. 叢書生涯学習第2巻 社会教育実践の展開</p> <p>7. 現代的人権と社会教育</p>	<p>共著 (主編)</p> <p>共著 (編集)</p> <p>共著 (主編)</p> <p>(主編)</p> <p>共著 (主編)</p> <p>(主編)</p> <p>共著</p>	<p>1987年 昭和62年9月</p> <p>1987年 昭和62年9月</p> <p>1988年 昭和63年8月</p> <p>1989年 平成1年6月</p> <p>1990年 平成2年3月</p> <p>1990年 平成2年9月</p> <p>1990年 平成2年10月</p>	<p>雄松堂、329頁 (分担) i~iv, pp. 107~120, pp. 120~132, pp. 179~202</p> <p>日本社会教育学会年報、日本の社会教育第31集、東洋館239頁、 (分担) pp. 203-237 p. 238。</p> <p>雄松堂、371頁 (分担) pp. i~iv pp. 3~6 pp. 51~64 pp. 75~104 pp. 315~371</p> <p>雄松堂、304頁</p> <p>雄松堂、300頁 (分担) pp. i~iii pp. 163~240</p> <p>雄松堂、292頁</p> <p>日本社会教育学会年報、No. 34、東洋館193頁、 (分担) pp. 142-152</p>	<p>社会教育基礎理論研究会の代表で主編者として編集した。自己教育の視点から日本近代史における社会教育思想の変遷を国民の自己教育運動と社会教育のシステム化の重層的な展開過程として明らかにした研究である。第Ⅰ部では自己教育思想の歴史的形成過程、第Ⅱ部では自己教育実践の思想が考察されている。</p> <p>編集委員として1975年刊行の日本社会教育学会年報第19集『学習権保障の国際的動向』を承け、adult educationとしての社会教育を中心に1970-80年代半ばの動向をまとめた。"A Selected Bibliography on International Trends of Current Adult Education (except Japan)" (共著)、及び「あとがき」(単著)を分担した。</p> <p>社会教育基礎理論研究会の代表で主編者として編集した。その内容は、戦後の復興、民主化から1980年代にかけて、様々な課題、領域、形態をもって進められている社会教育実践の動態に様々な角度から分析し、戦後の理論的到達点を提示した研究である。特に、アクション・リサーチの立場から実践の主体に焦点を当て、学習論の視点から社会教育の実践分析を試みている。</p> <p>社会教育基礎理論研究会の代表として、道徳性を内包する成人性の発達の諸論考を編集した。その構成と内容は、成人学習の課題、過程、評価などであり、これらに関してアイデンティティ、ライフサイクル、コーピング、自我、ジェンダー、エイジングなどの側面から考察した。</p> <p>社会教育基礎理論研究会の代表で主編者として編集した。その内容は、地域または職場で、自治を担いうる主体の形成過程を明らかにし、その自治が主体の学習活動を通して公共性をいかに備え、学習の共同性の発展に寄与しうるかを考察した研究であり、その中で特に「生涯学習政策と自主管理」(第4章)を考察した。</p> <p>社会教育基礎理論研究会の代表で主編者として編集した。戦後から50年代、60年代、70年代という時期区分に従い、共同学習、公民館運動における演劇活動、女性問題学習、PTA活動、地域健康学習などの事例研究を全体を見渡して調整し、社会教育実践が共同的で「対話」的な展開を示したことを明らかにした。</p> <p>編集委員として、現代社会の人権をめぐる多様な問題を、社会教育の視点から考察する論考をまとめた。その中で、「高齢者問題と社会教育実践」において、社会的不利益者に視点を据え、その問題の特質や解決の展望を社会教育実践の側面から考察した。差別や抑圧の問題に立ち向かう実践の意義が、学習権を手がかりにして示さ</p>

8. 叢書生涯学習第8巻 学習・教育の認識論	共著 (主編)	1991年 平成3年2月	雄松堂、344頁 (分担) pp. i~iv pp. 3~22 pp. 23~60	雄松堂、344頁 (分担) pp. i~iv pp. 3~22 pp. 23~60	社会教育基礎理論研究会の代表として編集した。認識論的な視点から、学習・教育を研究することの理論的基礎を考察し、社会教育実践の過程や動態を理解するための理論枠組みを提示した。その中で、成人学習に焦点を当て、第1章と第2章で、P. フレイレの「対話」という識字実践論に基づき、実践過程を相互主体的に理解すべきことを論じた。
9. 叢書生涯学習第5巻 社会教育の組織と制度	(主編)	1991年 平成3年6月	雄松堂、224頁	雄松堂、224頁	社会教育基礎理論研究会の代表として編集した。戦後社会教育の発展過程における公民館や青年団の役割に視点を据えて、社会教育の組織と制度を考察した論考を全体を見渡して調整し、まとめた。第6巻「自治の創造と公共性」が実践論の提起となっていることに対応して、この巻は組織と制度の現状の記述を基本としている。
10. 社会教育計画	共著	1991年 平成3年11月	学文社、229頁 (分担) pp. 70-104	学文社、229頁 (分担) pp. 70-104	倉内史郎編集。社会教育計画の考察を受け、第4章「成人の学習をすすめるうえの方法・技術—公共的テーマの学習をめぐる—」を担当し、地域社会教育計画の策定・推進を具体化するために、実践における学習者の理解や学習の方法・技術について、自己管理学習、カウンセリング、リーダーシップ等に焦点を当てて考察し、それらを公共的視点から捉えるべきことを論じた。
11. 叢書生涯学習第9巻 諸外国の生涯学習	共著 (主編)	1991年 平成3年12月	雄松堂、300頁 (分担) pp. 45-72	雄松堂、300頁 (分担) pp. 45-72	社会教育基礎理論研究会の代表で主編者として、生涯学習の国際的動向を、第三世界、自己管理学習、労働と教育の連関などに視点を据え、学習者の主体性に即して編集した。その中でユーゴスラヴィアの自主管理社会主義の思想やシステムと成人教育との連関を明らかにし、日本の生涯学習の思潮や動向の理解を深める部分を担当した(特に第三章「ユーゴスラヴィアの自主管理社会主義と成人教育—日本の生涯学習システムとの比較から—」)。
12. 生涯学習概論	共著	1992年 平成4年2月	東洋館出版 211頁 (分担) pp. 145-158	東洋館出版 211頁 (分担) pp. 145-158	香川正弘編集。生涯学習が広がる現代の動向の政策や制度に関する考察を受け、第5章「働く成人の生活と学習」において、働く成人の発達の特徴を踏まえて、現実の日常生活の中で実践される学習が働く意味や生きる意味に深く関わるべきことを論じた。
13. 叢書生涯学習第10巻 生活世界の対話的創造	共著 (主編)	1992年 平成4年6月	雄松堂 312頁 (分担) pp. 179-222	雄松堂 312頁 (分担) pp. 179-222	社会教育基礎理論研究会の代表で主編者として、生涯学習を、学習者の生活現実 に即して相互主体性の視点から分析し、その発展の方向性を「対話」という実践概念を手がかりに探求すべく編集した。その中で、障害者や高齢者などの学習活動の特質を明らかにして、それに対する社会教育実践の課題を、公共性概念を手がかりにして提起した。小松光一が「啓蒙型社会教育を超えるために」(『月刊社会教育』No. 444、1993年)で論評した。
14. 叢書生涯学習第4巻 社会教育実践の現在 (2)	共編	1992年 平成4年12月	雄松堂 302頁	雄松堂 302頁	社会教育基礎理論研究会代表として構想から関わった。『叢書生涯学習』第3巻「社会教育実践の現在(1)」を受けて、第1部では戦後社会教育学における宮原誠一の位置が考察され、それに基づいて『叢書生涯学習』の到達点を示し、第2部では公民館の実践における学習過程の分析が試みられている。そして、1990年段階の「現在」の生涯学習が概括されている。
15. 週休二日制、学校週	共著	1993年	日本社会教育学会年	日本社会教育学会年	学会担当幹事・編集委員として、週休二日制と関連し

五日制と社会教育		平成5年10月	報、No. 37、東洋館 201頁 (分担) pp. 61-73	た学校週五日制の試行という状況における社会教育の状況や課題に関する論考をまとめた。その中で「成人学習における労働とレクレーションの構成連関」を考察し、ユーゴスラヴィア自主管理と生涯教育の観点から生産・労働と再生産・レクレーションを接続する第三項たるボランティア活動の特質を析出し、その教育・学習的意義を提起した。
16. 生涯学習の創造	共著	1994年 平成6年5月	ミネルヴァ書房、 316頁、 (分担) pp. 52-67	宮坂広作、香川正弘編集。多様な学習機会が広がる現代における生涯学習の思潮、動向、制度、システム、政策の考察を受け、第3章「生涯学習の活動・実践」において、子供から高齢者に至るライフサイクルに即した生涯発達に対応した生涯学習の活動・実践に関わる諸理論を宮原、ジェルピ、フレイレなどに即して考察し、それを実践により創造すべきことを論じた。
17. 生涯学習時代の人権	共著	1995年 平成7年4月	明石書店、392頁 (分担) pp. 255-291	黒沢惟昭編集。生涯学習が広く議論されている現代的状況において、人権や差別という視点から、障害者、女性、外国人労働者、高齢者などの学習活動を考察したことを受け、第5章「情報社会における人権と社会教育実践」において、情報社会に焦点をあて、人権問題が物理的なだけでなく象徴的なかたちでも存在し、社会教育実践の重要な課題であることを提起した。
18. 高齢化社会への意識改革	共著	1996年 平成8年5月	勁草書房、259頁 (分担) pp. 108-137	関口礼子編集。地域、家庭、学校、社会教育、看護、メディアなどの諸領域に即した高齢化社会に向かう現代的動向に関する考察を受け、第7章「世代のサイクルにおけるシニア成人の発達と学習」において、高齢者へのケアに関わるシニアの成人の発達と学習の特徴や課題を、ライフサイクルと世代のサイクルの連関を統合的に捉える視点から明らかにした。
19. 現代社会教育の理念と法制	共著	1996年 平成8年10月	日本社会教育学会年報、No. 40、東洋館 217頁 (分担) pp. 182-193	編集委員として、戦後新たに出発した社会教育の50年の歴史を理念や法制度に即して総括する内容にまとめた。その中で、「生涯教育とアンドラゴジーの概念におけるユーゴスラヴィア自主管理社会主義思想の位置—社会教育概念の自主管理的発展に向けて—」において、生涯教育とアンドラゴジーという概念が、ユーゴスラヴィアの自主管理社会主義から生成しており、その理解に立って、今後の生涯学習の発展を展望すべきことを提起した。
20. ボランティア・ネットワーク—生涯学習と市民社会—	共編	1997年 平成9年10月	日本社会教育学会年報、No. 41、東洋館 239頁	編集委員として、共同学習論や社会教育実践論の研究成果に立脚して、生涯学習を市民社会の形成において捉える視点から、ボランティア活動が広がり、その諸活動がネットワーク化している現状と課題を明らかにし、経験の再構成（デュエイ）、「再分枝」教育（宮原）を応用してボランティア活動の教育的学習的意義を示した。
21. うちかて「いじめ」に—その予防・発見・対処—	共著 (主編)	1998年 平成10年6月	秋田魁新報社 67頁 (分担) pp. 2-4 pp. 34-43 pp. 62-66	秋田大学教育学部編。主編者として、現代の教育的病理現象の一つである「いじめ」の予防、発見、対処に関して、97年度秋田大学教育学部公開講座での講演内容を編集した。執筆分担は、「はじめに」、「いじめられない、いじめさせない『人間的強さ』の育成」、「日常生活の中で、今できること」であり、「いじめ」に対する「徳＝活力」育成の実践論的な考察を行っている。
22. 高齢社会における社会教育の課題	共編	1999年 平成11年9月	日本社会教育学会年報、No. 43、東洋館	編集委員として、高齢社会の進展に対処するための社会教育の課題を明らかにすべく、生涯にわたる学習の視

			261頁	点から高齢期の成人学習論の理論的検討、社会教育実践の事例分析、家族や地域の役割、他世代との交流事業、支援体制などに関する論考をまとめた。
23. NPOと参画型社会の学び	共著	2001年 平成13年2月	エイデル研究所 191頁 (分担)pp. 75-82	佐藤一子編。ボランティアなNPO活動を市民の学習ネットワークと捉え、そこに新たな共同学習の可能性を展望する視点を踏まえて、「市民のつくるアウシュヴィッツ平和博物館」において「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の活動が、常設展示館の建設に結実する過程を述べ、NPOとしての博物館のボランティア活動における平和学習の位置づけを示した。
24. 不登校問題に対処する学社融合プログラムへの参加を取り入れた教員養成カリキュラムの開発・研究	共著 (主編)	2001年 平成13年3月	秋田大学教育文化学部 169頁 (分担)pp. 1-4 pp. 168-169	秋田大学教育文化学部の研究プロジェクトの事業担当者として全体の構想、実施、成果の取りまとめ等を行った。文部省の平成11.12年度「教員養成カリキュラム改善に関する研究・開発」のプロジェクトを、不登校問題に対処する教員の実践力の養成に焦点を据えて、秋田県と秋田市の教育委員会、教育文化学部附属学校(園)、公立小中学校の連携を通して進めた開発研究の報告書である。特に、少年自然の家で行われた不登校生徒の発達支援プログラムをアクション・リサーチ的方法で調査し、これにより参加した学生スタッフの指導力に改善が認められ、このプログラムが教員養成カリキュラムの改善に意義があるという結論が得られた。
25. アイデンティティと戦争：戦中期における中国雲南省滇西地区の心理歴史的研究	単著	2002年 平成14年5月	グリーンピース出版 会 203頁	フロイトやエリクソンの心理歴史的視点から中国雲南省滇西地区における大日本帝国軍の侵攻と中国国民党軍の抵抗の実態を文献資料と口述資料の分析を通して明らかにし、それに基づく歴史の共通認識と共通教育の可能性を日中の市民による中国貧困地域の教育支援による日中の未来の共同的創造の実践に即してアクション・リサーチ的に論考し、その中で「構造的暴力」である戦争に対する「戦闘的非暴力」の意義を提示した。 劉燕子、胡慧敏訳、呉広義監訳により『自我認同感と戦争』として昆侖出版社(北京)から2004年7月に出版された。『留学生新聞』(日本)02年12月1日、『書評週間』(北京)02年12月1日、『保山日報』(雲南)03年11月29日、『中国時報』(台湾)05年8月14日で紹介された。
26. 青木進々：アウシュヴィッツを生きる	共著 (主編)	2002年 平成14年11月	アウシュヴィッツ平和博物館 84頁	アウシュヴィッツ博物館の遺品を中心に、10年以上110回に及ぶ巡回展を主に市民運動を通して開催してきた青木アウシュヴィッツ平和博物館館長の講演記録や遺稿などを編集し、解説を加えている。そこでは、ナチズムの本質理解、ホロコーストの現実、戦争の歴史認識と世代継承の意義、命と平和の価値、現代日本の課題などが、アウシュヴィッツを継承する平和教育実践としての巡回展に即して明らかにされている。
27. 希望への扉：心に刻み伝えるアウシュヴィッツ	単著	2004年 平成16年2月	同時代社 361頁	日本でアウシュヴィッツを通して戦争の暴力性を知らせ、生命と平和の尊さを訴える数々の営みをまとめたものである。アウシュヴィッツを広く知らせるために全国で110回開催された巡回展についてまとめた第3章を中心に、第1章ではアウシュヴィッツを考える理由や意義、第2章では巡回展に至るまでの経緯、また第4章ではボランティアなどアウシュヴィッツを知らせる実践を担う人々、第5章では現代日本でアウシュヴィッツを広く知らせる重要性について述べた。
28. グローバリゼーショ	共編	2005年	日本社会教育学会年	編集委員として、グローバリゼーションの進展におけ

ンと社会教育・生涯学習		平成17年9月	報第49集 東洋館出版社 303頁	る生涯学習、それに応じた社会教育の課題を明らかにすべく、その理論的考察、内外の実践の分析、持続可能な開発/発展のための教育、公平で平和な社会を構築・維持するためのニーズ、方法、課題などに関する論考をまとめた。
29. アウシュヴィッツの「囚人」6804	共編著	2006年 平成18年1月	アウシュヴィッツ平和博物館編、グリーンピース出版会 125頁 (分担) 84-101頁	アウシュヴィッツ収容所の生存者アウグスト・コヴァルチクの二度の来日講演(1997年と2005年)の記録、解説、講演会実行委員や来場者の寄稿、アウシュヴィッツ関連年表などによって編集されている。編集者の一人として、全体の構成、校閲、注記、付記などを担当し、さらに「解説」で意義を明らかにした。
30. トランスジェンダーとして生きる	共著 編集	2006年 平成18年6月	同時代社 109頁 (抽出不可能)	多様性を認めあうことによる個人の発達と社会の発展を展望し、西田幾多郎・三木清の「一即多、多即一」の弁証法に基づき、オーラルヒストリー、ライフヒストリーとヒストリカル・モメントの方法論を適用して性的マイノリティのアイデンティティ形成を考察した。構成は真木柗鷹へのインタビューと論文「日本近現代史とセクシュアリティ」(単著)となっており、特にバブル期に深刻化した性的頹廃・荒廃を乗り越える実践倫理の導出に取り組んだ。
31. 平和教育の思想と実践	単著	2007年6月	同時代社 478頁	博士学位論文(東京大学、2005年)を加筆したものであり、日本の教育学において重要な位置にある宮原誠一と五十嵐頭思想と実践を戦前から戦後を貫く視座から平和教育に即して研究し、それが地域社会教育実践に継承、発展したことを明らかにした。序章「研究の課題、方法、構成」、第1章「宮原における思想と実践との連関構造」、第2章「宮原社会教育学の思想的枠組み」、第3章「戦時下の宮原の論理展開」、第4章「体制変革の現実性と軍部赤色革命論」、第5章「五十嵐頭の平和教育の思想と実践」、第6章「地域社会教育実践における宮原と五十嵐の継承、終章意義と課題」という構成である。出版に際し、日本社会教育学会会長佐藤一子教授の推薦を得た。
32. 「ザ・レイプ・オブ・南京」を読む	共著	2007年12月	同時代社 189頁 (分担) pp. 151-189	アイリス・チャン著『ザ・レイプ・オブ・南京』の注釈と解説で構成されている。注釈は同書翻訳者の巫召鴻で、私は解説「忘却への抵抗と良知の責務」を分担執筆し、『ザ・レイプ・オブ・南京』の原著に対する日本の対応の特徴を分析・批判するとともに、原著の意義を提示した。 『中文導報』687号(07年11月22日)の一面トップと社説、同紙690号(12月13日)、『週刊金曜日』(07年12月7日)、『ふえみん』(婦人民主クラブ)2008年2月15日号、『まなぶ』(労働大学出版センター)08年3月号、『論座』08年4月号、『人民日報』海外版「日中新聞」08年4月22日、5月27日、『東方』(東方書店、9月5日、331号)などで紹介された。
33. アイデンティティと時代：1970年代の東大・セツルの体験から	単著	2010年10月	同時代社 190頁	学生セツルメント、民青、共産党、「査問」、離脱の経験の心理歴史的なアクション・リサーチと自己分析である。地域と学園という構成で、アイデンティティと時代の交錯におけるクライシスを、日本共産党における宮本体制確立のための粛党であった「新日和見主義批判」事件を手がかりに、自己分析的に考究した。司馬遷の『史記』に倣い、日本共産党の欽定党史が「本紀」で、川上徹氏の『査問』(ちくま文庫)が「列伝」であると

				すれば、本書は「外伝」に位置づけられる。
34. 青木進々：アウシュヴィッツを伝える一篇の詩	編著	2013年6月	同時代社 101頁 (分担) 5-18頁	前掲「青木進々アウシュヴィッツを生きる」を発展させた続編で、田中賢作との共著として編集した。「子どもの目に映った戦争」原画展や「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展を全国展開し、アウシュヴィッツ平和博物館の建設に生涯（ライフ）を傾注した青木進々（本名は青木進）のライフ・ヒストリーと実践をまとめ、自己教育としての平和教育の意義を明らかにした。
35. 戦中戦後 少年の日記 1944-45年	編著	2014年8月	同時代社 231頁 (分担) 3-8頁 185-207頁	東大のセツルメントや学生自治会で実践し、宮原研究室の第一期生として卒業して、群馬県島村で社会教育のアクション・リサーチを進めた藤田秀雄立正大学名誉教授の少年時代の日記を中心に、それを読む若い世代（工藤優子、堂本雅也）の文章を編集し、また「解説」を書いた。戦中から戦後の激動期を旧制中学の少年のアイデンティティ形成と時代がダイナミックに交叉している日記は貴重な資料であり、それを読む若い世代と世代のサイクルが形成されていることを明らかにした。
36. 学生セツルメント関係資料解説目録	共著	2015年3月	大阪府立大学21世紀科学研究機構大学史編纂研究所 82頁	大阪府立大学に保存されていた大阪の学生セツルメント関係の膨大な文献資料を、岡本周佳とともに整理し、目録を作成し、「はじめに」や「学生セツルメントについて」を執筆した。全国に展開した学生セツルメントだが、その原資料は国立国会図書館、大学・研究機関などでまとまって保存されてはならず、極めて貴重である。まだ一部であり、今後も作業を続け、研究を発展させるための課題も明らかにした。
37. 中川成夫における「人間の条件」の心理歴史的研究—特別高等警察主任警部や東京都北区教育委員長に即して—資料・東京都「北区の社会教育」第13号～第80号、昭和38年5月10日～昭和45年3月13日	単著	2017年8月	秋田平和学習センター 171頁	戦争と相関した国内での思想イデオロギー闘争においてコミンテルンなど国際共産主義運動と繋がった日本共産党に対する特別高等警察の象徴的存在たる中川成夫が寺院に隣接して自宅と幼稚園を建て、また東京都北区の教育行政に携わったことに即して、彼の「人間の条件」（パスカル～三木）を心理歴史的に考察した。やはり特高警察で戦後は北東北の地域行政の首長となった伊藤猛虎との関連で『平和教育の思想と実践』の研究の発展である。ソ連や中国の共産党一党独裁体制下の甚大な犠牲・被害を踏まえて、彼らの歴史的役割を再考する必要があることを提起した。資料として「北区の社会教育」第13号～第80号を収録した。
38. 学生セツルメントと大阪府立大学（大阪府立大学史資料叢書Ⅰ）	共著	2018年3月	大阪府立大学研究推進機構大学史編纂研究所 139頁 (分担) pp. 1-5	大阪府立大学に保存されていた大阪の学生セツルメント関係の膨大な文献資料を、岡本周佳とともに整理し、目録を作成し、また解説論文「熱きロマンと深い信頼—1960-70年代の学生運動と学生セツルメントから—」を分担執筆し、学生運動と学生セツルメントの心理歴史的な関連を明らかにした。
39. 「わたつみのこえ」に耳を澄ます—五十嵐頭思想・詩想と実践—	単著	2018年8月	同時代社 331頁	陸軍少尉から東大教育学部教授となったの五十嵐頭の戦没学徒兵の遺書・遺稿「わたつみのこえ」研究に基づいて、アイデンティティと歴史、戦争と平和、生と死を多角的に考察した。特に陸軍上等兵で不当な軍事裁判により刑死した木村久夫の生と死の意味を明らかにした。『平和教育の思想と実践』の発展であり、またアクション・リサーチに即した東大教育学の思想と実践の研究の一つに位置づけられる。
40. 盛田嘉徳文庫目録	編著	2020年3月	大阪府立大学研究推	盛田嘉徳文庫研究会の代表として編集した。森田の部

(1) 大阪府立大学史資料叢書Ⅱ			進機構大学史編纂研究所 55頁 分担、1-47頁	落差別への鋭い問題意識、同和教育の実践が、幅広い知識・教養、深い研究成果を基盤としていたことを、彼の解説、講演、評論、名刺帳などを整理して明らかにした。また収集した文献の一部を目録にまとめた。公刊された講演などに朱書きが加えられており、学者として真摯で厳密な研究姿勢が認められる。
41. 慰安婦と兵士の愛と死：限界状況において絡み合うエロスとタナトスの心理歴史的研究	単著	2020年7月初版 20年10月増補改訂版 21年1月第三版 電子版は逐次改訂	秋田平和学習センター 217頁	歴史の政治的利用により性と被害に偏した言説が繰り返される慰安婦について、兵士との愛と死に着目し、限界状況において絡み合うエロスとタナトスの心理歴史的研究として、序章「人間の心理歴史的な探究」、第一章「問い（プロブレマティック）—前提的作業として—」、第二章「『支援』された生存者の『証言』」、第三章「死者の声なき声—死者との邂逅—」、第四章「金春子と長井軍曹」、第五章「田村の文学世界における慰安婦と兵士の愛と死」、終章「人間の条件」と多角的に論証を進め、デモーニッシュなものを乗り越えるハイリッヒなものを析出した。
42. 盛田嘉徳文庫目録 (2) 大阪府立大学史資料叢書Ⅲ	編著	2021年3月	大阪府立大学研究推進機構大学史編纂研究所 91頁 分担、1-85頁	『盛田嘉徳文庫目録(1) 大阪府立大学史資料叢書Ⅱ』を発展させた研究成果である。盛田嘉徳の研究カードに基づき、家永三郎や丸山真男の日本思想史研究とは異なる低層の民衆に即した日本思想史の一面を提出した。特にカードが「高野山の行人／念仏衆」、「悪僧」、「濫僧」、「乞食法師」、「越打(エタ)」、「川原者」、「皮革」、「御庭者」、「とうない」、「河原者／穢多」、「鷹餌」、「穢多」、「ゑた」と続いていることは注目すべきと論じた。
43. 慰安婦と兵士：煙の中に忍ぶ恋	単著	2021年5月	集広舎 219頁	『慰安婦と兵士の愛と死：限界状況において絡み合うエロスとタナトスの心理歴史的研究』のダイジェスト版である。性に偏したポレミックな問題に愛の角度からアプローチし、新たな認識を提出し、歴史の共通認識・教育の発展を目指した。「煙の中に忍ぶ恋」は社会教育のサークルで伝えられてきた「煙仲間」に由った(出典は「忍ぶ恋」とともに『葉隠』)。
44. 盛田嘉徳文庫目録 (3) 大阪府立大学史資料叢書Ⅳ	編著	2022年3月	大阪府立大学研究推進機構大学史編纂研究所 121頁 分担、1-25頁、36-47頁、121頁	『盛田嘉徳文庫目録(1～2) 大阪府立大学史資料叢書Ⅱ～Ⅲ』を発展させた研究成果である。盛田の研究カードにおける「安齋隨筆」からの摘記に基づき穢多はエトリに由来するという語源的(etymological)な切口から専門的な技能の即して被差別階級の生成についてまとめた。また盛田の収集した文献を整理して暫定的に目録にまとめた。

<b>教科書</b>				
1. 生涯教育入門	共編著	2006年3月	大阪教育大学生涯教育計画論講座 86頁	生涯教育計画論専攻の初年次生向けの教材として作成された。社会教育、教育老年学、大学開放、図書館情報学に関する解説と資料が編集されている。
2. 生涯教育実践研究の実施に関する研究(4)	共編著	2006年9月	大阪教育大学生涯教育計画論講座 92頁	生涯教育計画論専攻の2～3年次生対象、見学やフィールドワークを組み入れた授業「生涯教育実践研究」の教材として作成された。アクティブ・ラーニングに即して職員論と実践分析論を分担執筆した。
3. 教養教育ハンドブック	共編著	2012年3月	大阪教育大学教養学	新入生が学ぶべき教養教育について、基礎教育や専門

ク —大学生になるために—			科 124頁 以後、毎年改訂	教育を見通して、重要な諸事項を簡明かつ総合的に説明したものである。編集責任者として「はじめに」、「教養（リベラル・アーツ）について」、「記録する（聞きながら・見ながら書く）」、「読みながら考える、考えながら読む」、「大学における「単位」と「時間」—予習と復習を含めて—」、「詩神の子—樋口一葉「わがこころざしは国家の大本にあり」」、「川端康成の「美しい日本の私」—ノーベル文学賞受賞講演から—」、「臆病な自尊心、尊大な羞恥心」を乗り越えるために—中島敦「山月記」から—、「志賀直哉「清兵衛と瓢箪」を読むために—文士と烈士の観点から—」、「あとがき」を執筆した。
4. 平成28年度社会教育 主事講習テキスト	共編著	2016年7月	大阪教育大学（主担 ・教養学科人間科学 講座） 167頁	近畿6府県社会教育主事講習（文部科学省主催、大阪教育大学委嘱）のために、主任講師・編集責任者としてテキストをまとめた。その中で「生涯学習概論—生涯学習と社会教育の概念・理念」（pp. 9-13）、「社会教育計画—社会教育と博物館—アイデンティティと歴史の観点から—」（pp. 88-92）、「社会教育特講—平和・安全と社会教育」（pp. 125-130）を分担執筆した。
5. 平成28年度教員免許 更新講習テキスト・選択 ・生涯学習と人間形成	単著	2016年8月	大阪教育大学（主担 ・山田正行） 64頁 以後、毎年加筆修正	教育基本法第三条「生涯学習の理念」に則り教育を実践する力量を受講生に習得させることを目標とする。また生涯にわたる発達と学習、それを指導する教師の役割、そのような教職の意義をテーマとする。胎児期から死期まで人間として生涯を全うするための発達過程を解説し、各段階における発達課題、この達成のための学習、その指導と教育について講義する。先人の遺産・叡智に立ちつつ、最新版の『生涯学習・社会教育行政必携』や『文部科学白書』に即して、高度情報化がグローバルに進展する現代のニーズに対応できる教育実践力を、アクティブ・ラーニングからアクション・リサーチに即して習得させる。
6. 平成29年度教員免許 更新講習テキスト・選択 ・生きる力とアクティブ ・ラーニング	単著	2017年8月	大阪教育大学（主担 ・山田正行） 45頁 平成30年度は加筆修正	生きる力を、少年期（就学前教育）、学童期（初等教育）、思春期（中等教育）という発達段階に即して強めるためのアクティブ・ラーニングの論理と実践を講義する。エリクソンのアイデンティティ論における徳＝活力（人間的強さ）の概念を教育実践に活用する。児童生徒のアクティブ・ラーニングと教師のアクション・リサーチを連動させ、その相乗効果で大人も子供も学びあう、Win-Winの生涯学習・生涯発達の理解を実践的に深める。
7. 健康科学専攻の教育 ・研究の成果と今後の展望	共編著	2017年9月	大阪教育大学大学院 健康科学専攻 86頁	学際的な健康科学に関する教員と院生による研究方法論や調査研究報告をまとめた論集で、授業に活用できるように編集されている。より具体的に「修士から—研究成果の活用—」、健康科学FDシンポジウム（2017年6月25日）「大学院教育学研究科の教育・研究の成果と今後の展開—社会人が学べる夜間大学院健康科学専攻の役割と今後の課題から—」の記録、健康科学専攻の資料も収録されている。
8. 教育協働学科教養教育 ハンドブック—大学生 になるために— 増補改訂版	共編著	2018年3月	大阪教育大学教育協働 学科 140頁	大阪教育大学教養学科が教育協働学科に改組されたこととともない、編集責任者として前掲「教養教育ハンドブック」の内容を大幅に改善し、教養学科を改組して発足した教育協働学科に関する説明も加え、増補改訂版として発行した。



9. 令和元年度社会教育 主事講習テキスト	共編著	2019年6月	大阪教育大学（主担 ・人間科学講座） 全213頁	近畿6府県社会教育主事講習（文部科学省主催、大阪教育大学委嘱）のために編集責任者としてテキストをまとめた。その中で「はじめに」（目次の前）、「生涯学習概論—生涯学習と社会教育の概念と理念」（pp. 11-14）、「社会教育計画—社会教育と博物館」（pp. 116-119）、「社会教育特講—グローバル化と社会教育」（pp. 165-169）「社会教育特講—平和・安全と社会教育」（pp. 170-172）を分担執筆した。
10. 社会教育の経営・生涯学習の支援（ノート） ：社会教育士に期待される役割を展望して	編著	2019年8月	秋田平和学習センター 全69頁 分担 p. 1、pp. 35-69	山田「はじめに」、西尾征樹「まちづくりとひとづくり—社会教育の経営と生涯学習の支援—」、堂本雅也「社会教育の両義性とその言説に関する一考察—公立社会教育施設の首長部局移管に焦点を当てて—」、山本峻平「経営コンサルティングの経験から」、山田「社会教育の経営と戦略：持続可能な個人の発達と地域の発展のために」という構成になっている。刊行時で文科省と関連のサイト、国会図書館、国立情報学研究所CiNiiなどで検索しても類書は見当たらず、先駆的意義がある。また経営管理論と社会教育行財政の要点をまとめており、理論的にも高いレベルを維持している。特に経営を戦略に展開したことは、生涯学習・社会教育の領域では意義が大きい。
11. 社会教育の経営・生涯学習の支援（Ⅱ）：生き生きした学びあい・教えあいのために	編著	2020年2月	秋田平和学習センター 全50頁 分担 pp. 1-2、pp. 24-48、 pp. 49-50	『社会教育の経営・生涯学習の支援（ノート）：社会教育士に期待される役割を展望して』を発展させたテキストである。構成は山田「はじめに」、西尾征樹「社会教育の「趣味的・実技的な内容」についての一考察—実践における経験から—」、三上香子「市民協働イベントの体験報告—大阪狭山市の公民館自主事業「ふれあいライブ」を中心に—」、山田「社会教育の経営と生涯学習の支援の相乗効果のために：自主管理と批判的自省のダブル・スパイラル学習」、山田「おわりに」となっている。
12. 大学での学びを考える：学ぶ幸せが、ここにある	単著	2021年4月 2021年9月	高野山大学教育学科 全23頁 増補改訂 全36頁	教育者を指す大学一年生に向けて、四年間の学生生活で、受験学力から知力、教養（リベラル・アーツ）、実践力・実力、生きる力、ともに生きる力へと発達するための指針をまとめた。その中で、具体的に、大学における「単位」と「時間」（予習と復習を含めて）、聞きながら・見ながら書く（講義でノートをとる）、読んで考える、読みながら考える、学習と実践（体験学習との関連で）、学んだことを結実させる、克己（「臆病な自尊心、尊大な羞恥心」を乗り越える）などに即して説明した。
13. 社会教育の経営・生涯学習の支援（Ⅲ）：地域社会の持続可能な発展／開発のために	編著	2022年1月	秋田平和学習センター 全63頁 分担 pp. 1、p28-63	『社会教育の経営・生涯学習の支援（ノート）：社会教育士に期待される役割を展望して』、『社会教育の経営・生涯学習の支援（Ⅱ）：生き生きした学びあい・教えあいのために』を発展させた西尾征樹・丸本章博との共著である。山田は「はじめに」と「持続可能な発展／開発と社会教育の経営：個人の生きる力と社会の生産力を統合的に強める『チーム社会教育』」を分担執筆した。

学術論文				
1. 成人の発達課題とし	単著	1980年	社会教育学・図書館	成人期社会化論の成果を発達と学習の角度から批判的

ての自治能力		昭和55年3月	学研究（東京大学教育学部社会教育学研究室編）第4号 55～65頁	に摂取し、社会教育実践における成人の学習のより深い認識のためには、成人の発達の理解が重要であることを、自治能力に即して提示した。これを経営組織において発展させたのが東京大学大学院教育学研究科修士論文「成人の学習と自治能力の発達—経営組織における自治能力の形成」（1981年3月）である。
2. 戦後日本労働者教育研究における自己教育論の展開と意義	単著	1982年 昭和57年3月	社会教育学・図書館学研究（東京大学教育学部社会教育学研究室編）第6号 1～12頁	東京大学社会教育学研究室において、宮原誠一を中心にして進められた戦後労働者教育共同研究の展開について考察し、社会教育学における労働者の自己教育運動論の意義を確認し、労働者教育研究の方向性を探究したものである。
3. 労働者教育と自律的作業集団	単著	1982年 昭和57年3月	東京大学教育学部紀要 第22号 313～322頁	宮原研究室の労働者自己教育運動に関するアクション・リサーチの成果に立ち、労働者の能力と学習・教育を、QCサークルなどの職場の自律的作業集団の分析を通じて検討し、自主管理という理念と実践の社会教育研究における意義を明らかにした研究である。
4. 企業・労働組合の研修・教育活動	単著	昭和56年3月 1981年	中津川市民の教育・文化・学習の組織 24～32頁	岐阜県中津川市教育委員会調査研究プロジェクトの報告書に収録されたモノグラフである。中津川市内の企業における研修など企業内教育と労働組合における労働者自己教育運動（自律的作業集団や学習サークルを含む）についてまとめた。
5. 企業と市民	単著	昭和58年3月 1983年	文化学園都市づくりを求めて 21～30頁	岐阜県中津川市教育委員会調査研究プロジェクトの最終報告書に収録されたモノグラフである。同市における社会教育、労働者教育、企業内教育の関連性を明らかにし、企業・労組が「文化学園都市」のビジョンの実現において果たす役割を示した。
6. 現代の労働と学力：地域の教育・学習構造と労働力商品の形成に関する事例研究	単著	1983年 昭和58年3月	社会教育学・図書館学研究（東京大学教育学部社会教育学研究室編）第7号 35～48頁	N市における社会教育、労働者教育、企業内教育の関連に視点を据えて、労働力商品の地域的形成とその基礎を構成する地域社会の教育・学習構造を明らかにし、学校教育における学力と労働者教育・企業内教育における労働力との接続を探究した研究である。
7. 社会教育実践分析の過程とアクション・リサーチ	単著	1984年 昭和59年6月	日本社会教育学会紀要、第20集 25～33頁	ルイ・アルチュセールの認識論を応用し、社会教育研究を「理論的実践」として位置づけ、社会教育の実践事例の分析にアクション・リサーチの方法論を導入して考察を行い、社会教育実践分析論を発展させることを探究した研究である。
8. 労働と学習—抑圧と解放の重層決定的弁証法—	単著	1985年 昭和60年3月	戦後社会教育学習論の研究（東京大学大学院社会教育学研究室編）23～34頁	労働および労働者を対象にした成人の学習論をめぐる思想的理論的動向を概観し、それがシステムにおける主体の抑圧と解放の問題にいかに関与しているかについて、ルイ・アルチュセールやパウロ・フレイレの批判を考察した研究である。
9. 消費管理社会における生活の質と消費者教育の課題	単著	1985年 昭和60年3月	東京都生活文化局消費者問題調査研究報告書 45～60頁	生産教育・労働者自己教育と消費（者）教育との対比において、カール・マルクスの生産、価値、労働価値、使用価値、及びピエール・ブルデュの文化的再生産論における文化の商品化と消費の研究を日本の消費社会に応用し、消費者が管理されるのではなく、主体的に自分の消費を管理し、生活の質を高めるための教育・学習の課題を導き出した。
10. 高度産業社会における青年労働者の学習	単著	1985年 昭和60年10月	現代社会と青年教育（日本社会教育学会	ブルデュの象徴的暴力論や宮原の学習要求の自覚化論に基づき、高度産業社会における青年労働者の学習の問

			年報第29集) 84～92頁	題を考察し、そこではアイデンティティをめぐる青年の 発達の認識が求められることを示した研究である。
11. 老いと学習—生涯教育 体制における—	単著	1986年 昭和61年1月	現代思想 青土社 Vol. 14-1 174～188頁	ルイ・アルチュセールのイデオロギー論を手がかりに して、現代社会における「老い」の意味について考察 し、現代日本の生涯教育システムにおいて高齢者が排除 されている問題について考察した研究である。
12. 社会教育実践分析に おける科学の問題—数 学モデルとアクション ・リサーチ—	単著	1986年 昭和61年3月	社会教育学・図書館 学研究（東京大学教 育学部社会教育学研 究室編）第10号 23～30頁	社会教育実践分析論に関して、カタストロフ理論に代 表される数学モデルを社会教育に導入する議論を検討 し、それとの対比からアクション・リサーチ論の社会教 育実践分析論における意義を示し、社会教育学の領域に おける科学論の性格について実践論的に考察した研究で ある。
13. 高齢者の学習におけ るアイデンティティの 問題	単著	1986年 昭和61年6月	日本社会教育学会紀 要、第22集 18～28頁	東京都S区で実施されたS市民大学老後問題ゼミとい う社会教育実践を、ルイ・アルチュセールの理論的実践 と宮原誠一のアクション・リサーチを組み合わせて分析 を試み、実践の過程における高齢者の発達とそれをもた らした学習を明らかにした研究である。
14. 生涯教育論における 再生産と主体形成	単著	1986年 昭和61年10月	生涯教育政策と社会 教育（日本社会教育 学会年報第30集） 216～227頁	生涯教育政策を分析するための理論枠組みを、フラン スにおける文化的再生産論をめぐる議論（特にルイ・ア ルチュセールからピエール・ブルデュ）を手がかりにし て提示し、政策の計画・実施・点検・評価の過程におけ る主体の分析の意義を究明した研究である。なお編集委 員として「あとがき」pp. 255-257も執筆。
15. 労働と教育・学習の 関係における小集団の意 義：生涯学習の理念に関 するユーゴスラビアと日 本の比較研究	単著	1987年 昭和62年3月	社会教育学・図書館 学研究（東京大学教 育学部社会教育学研 究室編）第10号 23～30頁	生涯学習論における自主管理思想の位置づけを、ユー ゴスラビアの自主管理社会主義と日本の自律的作業集団 との比較検討を通して考察し、労働と学習を担う主体と しての成人にとって小集団活動のもつ意義を探究したも のである。
16. 企業内教育研究にお ける自主管理的視点	単著	1987年 昭和62年6月	現代社会教育の創造 （日本社会教育学会 30周年特別年報） 東洋館、 357～360頁	自主管理と生涯教育の研究成果に立脚し、学習の主体 としての労働者の自発性・自主性を視座の基本に据え、 企業内教育研究に即して共同学習、学習サークル、自律 的作業集団などについて概観し、それを社会教育に位置 づけて意義を捉え直した研究である。
17. 企業内教育における 職業教育の動向	単著	1988年 昭和63年3月	文部省科学研究費補 助金研究報告書「成 人職業教育の再編に 関する研究」 45-56頁	倉内史郎東洋大学教授を代表とする成人職業教育の総 合的な調査研究である。その中で、産業構造が変動する 状況下で企業内教育の動向を考察し、特に、OJTから OffJTへ重点が移行し、公共職業訓練との連携が広 がっていることを述べ、民間企業の私事性と公共性を統 合する自主管理を提示した。
18. 成人学習論における セクシュアリティの構造 —成人性と女性・男性・ 子どもの三者関係	単著	1990年 平成2年6月	日本社会教育学会紀 要、第26集 64～74頁	実践倫理とセクシュアリティの視座から、学習の主体 としての成人を、男女を超えるジェンダーを見すえつつ 暫定的に女性と男性に弁別し、両者と子供という三者の 相互性の考察を通して、成人学習論の再構成を試みるこ とを通してジェンダーをめぐる問題にアプローチした。
19. 自己啓発と自己教 育、再論—企業内教育の 現在—	単著	1991年 平成3年2月	月刊社会教育 No. 416. 国土社 6-13頁	藤岡貞彦の「自己啓発と自己教育」論（宮原編『生涯 学習』東洋経済新報社、1974年）所収）を承けて、自主 管理に関する研究を踏まえ、企業内教育において推進さ れている自己啓発に再検討を加え、改めて労働者の自己 教育運動論の理論的発展が求められることを論じ、その 鍵にアイデンティティの研究があることを提起した。

20. 成人の発達と学習における生一老一死の構造	単著	1992年 平成4年6月	社会教育学研究 (秋田大学社会教育研究室) No. 1, 100-118頁	高齢期の成人の発達を生一老一死の構造において捉え、そこで実践される学習をデス・エデュケーションに関連させて考察し、成人の発達と学習の意義を死を迎えようとする高齢者においても確認できることを示した。
21. 成人の発達と職業技術教育	単著	1993年 平成5年4月	悠峰職業科学研究紀要 (悠峰職業科学研究所) No. 1, 46-51頁	E. H. エリクソンのライフサイクル論に基づいて、職業技術教育の領域に即した成人の発達の理解を示し、それに相関した学習の在り方を、職場の自律的な作業集団の共同学習に関連させて考察した。悠峰職業科学研究所研究助成の成果である。
22. Adult's Self-Directed Learning of the Care of the Elderly and Communicative Intergenerational Relationships	単著	1994年 平成6年7/8月	<i>Educational Gerontology</i> , Vol. 20, No. 5. pp. 511-520.	高齢者のケアをめぐる学習の実践を、世代のサイクルという視点から、日本の地域健康学習、ボランティア活動、生活協同組合運動に即して考察した。なお、この論文は、セルボ・クロアチア語に翻訳されて、 <i>Andragoske Studije</i> , Vol. 1, Broj 1-2, Apr-Oct, 1994. に掲載された。
23. 成人学習におけるハビトゥス変換に向けた批判的自省	単著	1995年 平成7年2月	秋田大学教育学研究—改革と教育— (戸田金一教授退官記念号) 秋田大学教育学研究室 137-153頁	人間存在の深奥に歴史的に形成されて習慣化したハビトゥス=複合的習性・慣習 (P. ブルデュ) の変換の手がかりを、危機的で批判的という二重の意味のクライシスの理解に求め、それを人間発達に結び付ける成人学習の実践としての批判的自省 (J. メジロウ) について、解放の教育学 (P. フレイレ) を見据えて考察した。
24. ハビトゥス変換に向けた批判的自省と危機=批判を回避する自省	単著	1995年 平成7年9月	教育学年報4 世織書房 379-408頁	ブルデュとハーバーマスのハイデガー批判を手がかりにして、発達の基礎たる自己認識を得る自省には、発達を回避する再生産的機能作用があることを指摘し、それを乗り越える批判的自省の成人学習論を、実践感覚論から導出したハビトゥス変換という実践的概念として提示した。
25. 成人学習における批判的自省とイデオロギーの問題	単著	1996年 平成8年3月	研究紀要、第1号 東京学芸大学生涯教育研究室 35-63頁	エリクソンの「疑似種族 (化)」論を手がかりにして批判的自省とイデオロギーとの関連を考察し、イデオロギーを通して機能する文化的な支配、抑圧、暴力に対抗し、解放に向けた批判的自省の成人学習論を提示した。
26. 生涯学習の実践論における政治と哲学	単著	1996年 平成8年3月	秋田大学教育学部研究紀要、教育科学、第49集 75-86頁	アルチュセールのマルクス理解をめぐる論争を取り上げ、そこにおける哲学の政治的機能、およびイデオロギーを通じた政治の哲学的な展開の問題を明らかにし、これに対する彼の理論的実践が、生涯の発達と学習の本質理解を深める上で重要であることを論じた。
27. 現代の世界システムと教育	単著	1996年 平成8年4月	教育と文化、第3号 国民教育文化研究所 76-85頁	日本をグローバルな視角から捉え、バブル経済に象徴される現代の世界システムにおける諸問題の本質を、帝国主義的な寄生性と腐朽性と捉え、それに対する教育の課題を、P. ブルデュの文化的再生産や象徴的暴力の研究に基づいて提出した。
28. 地域における博物館活動とボランティアの学習	単著	1997年 平成9年5月	秋田大学教育学部研究紀要、教育科学、第52集、47-53頁	日本におけるポーランド国立オシフェンチム (アウシュヴィッツ) 博物館収蔵の遺品を中心とした巡回展活動に着目し、そこにおけるボランティアの学習を、平和教育や人権教育などに関連させて分析した。
29. 図書館サービスと情報社会における地域社会教育の実践的公共性	単著	1997年 平成9年5月	秋田大学教育学部研究紀要、教育科学、第52集、55-59頁	図書館サービスに関して、情報社会における生涯学習政策の推進状況という視点から考察した。特に、それが図書館情報のサービス活動の充実と展開として方向づけられていることを確認し、このような動向は、地域社会

				教育実践の公共性を基盤とした図書館利用者の学習の進展と結びついていることを明らかにした。
30. 生涯学習と公共図書館の児童サービス—児童の発達 課題に対応した図書館サービスの内容と方法—	単著	1997年 平成9年5月	秋田大学教育学部研究紀要、教育科学、第52集、61-68頁	児童期の発達を生涯発達の視点から捉え、それに対応して、公共図書館の児童サービス活動を生涯学習の実践として推進すべきことを論じた。特に、読書を通じた言語習得などのコミュニケーション能力の獲得が、図書館の児童サービス活動においても明確に位置づけられるべきことを、公共図書館の活動に即して提示している。
31. 戦中期における中国滇西地区のアイデンティティの心理歴史的研究(1)	単著	1998年 平成10年12月	社会教育学研究(秋田大学社会教育研究室) No. 5 37-49頁	中国雲南省滇西地区における皇軍のジェノサイドや戦争犯罪について被害者や遺族の聞き取り調査を行い、その実態を明らかにするとともに、その被害を乗り越えて高齢期のライフサイクルの完結(E. H. エリクソン)を示した。
32. 戦争責任問題の心理歴史的分析	単著	1999年 平成11年1月	状況と主体、谷沢書房 No. 277、55-65頁	戦争に関する歴史認識や戦争責任論が自虐的であると非難される問題状況の深層を探究するために、ベストセラーとなった「完全自殺マニュアル」と「戦争論」に現象したタナトスの心理社会的展開を析出し、それに対してガンディー=エリクソンの戦闘的非暴力に基づく実践が重要であると論じた。
33. 平和と人権をテーマにした大学教育実践の自己分析	単著	1999年 平成11年6月	人間と教育 No. 2 2 旬報社 102-107頁	1997年から98年にかけて、市民の平和学習の実践に参加した学生たちの文章を分析し、それに基づいて、大学教育における平和や人権という課題、ボランティア活動の位置づけについて、自己分析の視点から考察した。
34. 高齢者の学習課題と戦闘的非暴力—元日本軍「慰安婦」のライフサイクルの完結とその世代継承の実践—	単著	1999年 平成11年6月	日本社会教育学会紀要、第35集 37-46頁	エリクソンが『ガンディーの真理』で提起した戦闘的非暴力論を、中国と韓国の元皇軍「慰安婦」のライフサイクルの考察に適用し、彼女たちの発言や実践から戦闘的非暴力の要素を析出し、これは日本社会の深層における日本的ハビトゥスの変革に迫る可能性を有しており、また、それは市民運動を通して若い世代に継承されていることを論じた。
35. 青少年の平和学習と市民の創る平和博物館—心に刻むアウシュヴィッツ展に即して—	単著	1999年 平成11年8月	月刊社会教育 No. 526 国土社 75-82頁	三重県津市と秋田市のアウシュヴィッツ展における小中高生のボランティア活動を分析し、平和のための市民の博物館活動が青少年の平和学習の機会となり、それが学校の生徒会や文化祭などの特別活動の活性化にも結実していることを明らかにした。
36. 宮原誠一平和教育論の現代的継承のために	単著	2000年 平成12年9月	月刊社会教育 No. 539 国土社 68-73頁	宮原誠一の社会教育学を平和教育の側面から取り上げ、彼が目にした戦後直後の秋田における平和学習の実践を、現代の秋田における平和学習の状況と照らし合わせることで、その現代的意義を提示した。
37. 戦争の心理歴史的認識と平和学習の課題	単著	2001年 平成13年11月	社会教育学研究、No. 6 秋田大学社会教育研究室 1-38頁	戦争を「構造的暴力」と捉える視点から、フロイト=エリクソンの心理歴史的分析、およびオーラル・ヒストリーやアクション・リサーチの方法論をもって侵略戦争の現実を分析し、日本の戦争責任・戦後責任の問題に迫り、平和学習の課題を提起した。
38. 生命の大切さを教える道徳の授業—2年生一人ひとりが自分の本音を見つけた授業実践	共著	2002年 平成14年3月	教育実践研究紀要、第24号、秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター 67-82頁	高田美徳子との共著であり、特に自己分析、参与観察、アクション・リサーチの方法論をもって小学校2年生のミニ学級会と道徳の授業実践を分析し、子供達が本音で話し合う中で生き物の生命と死の理解を深めることを通して人間の生命や死の価値や意味を認識して成長する学習とそれを指導する教育の過程を明らかにした。

39. 平和学習論における学習権と非暴力ー藤田秀雄によるThink Globally, Act Locallyの統合	単著	2002年 平成14年8月	月刊社会教育 No. 562 72-78頁	1990年代から強まった植民地支配や侵略戦争の問題を糊塗し、あるいは美化し、また或いは歴史を政治外交で利用する動向に対して、国際的な視野から社会教育を研究してきた藤田秀雄に注目し、Think Globally, Act Locallyという立場から進めてきたその学習権論と平和学習論の意義を提起し、非暴力の平和学習論を研究するための課題を提示した。
40. 歴史の共通認識と未来の共同的創造ー『アイデンティティと戦争』からー	単著	2002年 平成14年8月	人間の尊厳と共生教育研究(日本教育学会課題研究報告書、2000～01年度) 23-31頁	中国雲南省の調査を基にした小著『アイデンティティと戦争』への質問や論評に対して、調査研究の経緯と理由、皇軍などの用語の概念や文脈の説明、戦争責任論に関わるハナ・アレントの「人間の条件」の位置づけ、研究方法論としての客観主義の主観主義と反省的人間学、及び、相互主体(主観)性・間主観性・共同主観性など項目に従って答え、これにより上記の調査研究をさらに発展させた。
41. 日中の歴史の共通認識と自己教育の共同的発展による未来の共同的創造	単著	2002年 平成14年12月	日本学評論 2002年第3・4期 中国東北師範大学 吉林、長春 105-111頁	ルイ・アルチュセール、ミッシェル・フーコー、ピエール・ブルデューの緒理論に基づき、日中の歴史の共通認識を得るために時間と空間を拡張してマクロ的視点を導き出し、それを踏まえて、社会教育の実践に視点を向けてミクロ的視点を提示し、これにより、日中市民の自己教育の共同的発展による未来の共同的創造の意義を明らかにした。
42. ハビトゥスと象徴的暴力の概念による象徴天皇制問題の分析	単著	2003年 平成15年1月	民主教育研究所年報 第4号 241-261頁	ブルデューの「必然性の徳=活力」としてのハビトゥスとカントの定言命法の関連を考察して象徴的暴力論を発展させ、それを以て自己教育の視点から象徴天皇制を分析し、摂政、関白、将軍(執権)、藩閥、軍閥によって利用してきた権力の位置に、戦後の象徴天皇制では米国が占めると論じ、その上で、現在でも、これが全員一致現象を通じた排除の構造において象徴的暴力として機能していることを、読書推進施策に即して具体的に明らかにした。
43. 歴史の共通認識と国立国会図書館の役割ー「戦争被害調査会法を実現する市民会議」の生成と展開	単著	2003年 平成15年1月	日本図書館情報学会誌、Vol. 48, No. 4. 166-174頁	グローバリゼーションの趨勢において、隣国との歴史の共通認識の形成のために国立国会図書館の果たすべき役割を示し、特に、戦争被害に関する資料の調査、収集、整理、管理、提供を国家の責任として行う点に注目し、それに向けて国立国会図書館法の改正に取り組む「戦争被害調査会法を実現する市民会議」の生成と展開を、市民の自己教育運動の視点から明らかにした。
44. 国立国会図書館と市民の自己教育ー羽仁五郎と中井正一の図書館論に即してー	単著	2003年 平成15年3月	秋田大学教育学部研究紀要、教育科学、第57集、 pp. 21-30	戦争の反省に立ち、民主的で文化的な平和国家建設に向けて国立国会図書館創設に努力した参議院図書館運営委員長羽仁五郎と初代副館長中井正一の図書館論を取り上げ、それが、国立国会図書館が議員だけでなく、議員が代表する国民のための中央図書館として構想され、情報社会において市民の自己教育が発展する現在においても、大きな意義を有していることを論じた。
45. 日中の歴史の共通認識の微視的/巨視的展開	単著	2003年 平成15年3月	秋田大学教育学部研究紀要、人文・社会科学、第57集、 pp. 69-77	中国雲南省の戦争の調査研究を発展させるために、巨視的には時間を二十世紀にまで拡大して建国後の中国における思想統制の暴力を述べ、また空間を東アジアから欧米に拡大して、各国の相互関係を指摘し、次いで、微視的には、「劳工訓練所」など社会教育の名称が付けられた施設が実態では収容所であり、また、戦場では千年来の日本的ハビトゥスと認識できる斬首が行われていた

46. 生涯学習と大学の地域貢献	単著	2003年 平成15年3月	秋田大学教養基礎教育研究年報、第5号 pp. 19-30	行政改革を通じた国家統制の脈絡で大学改革が進められ大学が統廃合される問題を、ヴェブレンの大学の企業化批判を手がかりに検討し、それを踏まえて地域生涯教育・生涯学習における大学の地域貢献や教育サービスのあり方を、鈴木健次郎の思想や実践から生涯学習推進体制と県民カレッジに至る秋田県の生涯教育・学習と秋田大学の大学開放の試行との関連に即して示した。
47. 五十嵐頭「教育費と社会」を自己教育の視点から読む(1)	単著	2004年3月	社会教育学研究第8号 大阪教育大学生涯教育組織論ゼミ pp. 1-9	教育行政学を教育費の角度から研究した五十嵐頭の「教育費と社会」の草稿を手がかりにして、五十嵐の思想的根源を探ると共に、五十嵐=宮原という思想的系譜を明らかにすることを通して、五十嵐教育行政学の社会教育的、自己教育的意義を提示した。
48. 平和文化の創造をめざしてー「平和と非暴力の21世紀」における平和学習の課題	単著	2004年9月	現代的人権と社会教育の価値(講座現代社会教育の理論Ⅱ) 日本社会教育学会編 東洋館 pp. 95-113	国連の提唱する「平和と非暴力の21世紀」における平和学習の課題について、国連とユネスコの創設までの歴史的経緯を踏まえて考察し、それを踏まえて宮原社会教育学に依拠して、プロパガンダに対する自己の学習要求の追究と自覚化が、現代日本の課題として重要であると論証した。
49. P. ブルデュにおける実践の社会教育的研究(Ⅰ)ー社会教育実践の認識論のためにー	単著	2004年9月	大阪教育大学紀要第IV部門教育科学第53巻第1号 pp109-122	ピエール・ブルデュの反省的人間学、反省的社会学における実践論、特に、ハビトゥス(構造的な習性)や実践感覚の論理の研究を通して、日本の社会教育実践論の認識論的な発展と深化を目指した。この作業は多方面にわたるため、ここではまず主題の提示とブルデュを通して社会教育実践の認識論を追究する意義を述べ、特に、彼とパスカルとの思想的認識論的關係を示し、その中で宮原誠一や藤岡貞彦の社会教育論を対比的に論じた。
50. 五十嵐頭「教育費と社会」を自己教育の視点から読む(2)	単著	2004年11月	社会教育学研究第9号 大阪教育大学社会教育論ゼミ pp. 5-22	五十嵐の草稿「教育費と社会」と岩波講座現代教育学第3巻所収の「教育費と社会」の比較考察を行い、五十嵐において自己教育、教育の民主的国際連帯、マルクス主義、ヒューマニズムなどの思想が構造化されていることを明らかにし、合わせて、捕虜収容所時代の日記を手がかりの、その思想構造の起点を示した。
51. 全体主義の遍在と戦闘的非暴力の可能性	単著	2005年1月	情況 2005年1-2月号 pp. 184-201	『全体主義の起源』におけるアレントのユダヤ人観がハイデガーの戦争責任回避の弁明と相関していることを示し、アレントの意義をナチズム批判ではなく全体主義の遍在の認識に見出し、それに対する抵抗として戦闘的非暴力の実践理念を提示した。
52. P. ブルデュにおける実践の社会教育的研究(Ⅱ)ーブルデュの実践論の学習・教育論への連接	単著	2005年2月	大阪教育大学紀要第IV部門教育科学第53巻第2号 pp. 113-126	「P. ブルデュにおける実践の社会教育的研究(Ⅰ)」を承けて、まず学習者の自己決定や自主性に主眼を置くことされるM. ノウルズのアンドラゴジーを取り上げ、その実践にM. フーコーが論じた監視と処罰の支配抑圧装置であるパノプチコンが現象したことを批判し、ノウルズとは異なるヨーロッパ的な「人間教育学」としてのアンドラゴジーの意義を示した。そして近代性批判の脈絡で成人学習論におけるいくつかのブルデュ研究を考察し、その中で前号で批判したC. アーギリスとD. ショーンの「自省」と理論的に異なる「自省」への接近を述べ、P. フレイレやJ. メジロウの「批判的自省」に視点を向けるべきことを論じた。
53. 日中台の歴史の共通	単著	2005年3月	アジアにおけるグロ	科学研究補助金基盤研究(B)研究成果報告書である。

認識と共通教育の課題—台湾二・二八事件の世界史的認識に即して—			一バリゼーションのもとでのコミュニティ教育 pp. 96-117	『アイデンティティと戦争』などで進めてきた日中の歴史の共通認識と共通教育の研究に台湾の視点を取り入れて発展させた。特に、二・二八事件に着目し、台湾本省人にとって、日本の植民地支配の暴力だけでなく、大陸から来た外省人の暴力も重大であったことを述べ、歴史の共通認識と共通教育にとって重要な課題であることを示した。
54. 五十嵐頤「教育費と社会」を自己教育の視点から読む(3)	単著	2006年1月	社会教育学研究 第10号 大阪教育大学社会教育学研究室 pp. 5-7	教育行政学を教育費の角度から研究した五十嵐の草稿「教育費と社会」の研究をさらに深めたものである。前の1と2を合わせて博士論文「平和教育の思想と実践」と、それを発展させた『平和教育の思想と実践』(同時代社)に結実させた。
55. 戦争の歴史の隠蔽、美化、改竄の構造的問題と市民による平和運動	単著	2006年1月	社会教育学研究 第10号 大阪教育大学社会教育学研究室 pp. 8-38	「日中台の歴史の共通認識と共通教育の課題—台湾二・二八事件の世界史的認識に即して—」等を発展させた論文である。戦争は複合的な暴力であるため、常に証拠隠滅がなされ、さらに戦後もその隠蔽、美化、改竄が試みられることを構造的な問題として考察し、それに対して真相を究明する市民の平和運動の意義を示した。
56. 日本反戦平和運動と“市民的勇気”	単著	2006年8月	橄欖枝(Olive Branch)中国非公認教会刊行、第3期 pp. 5-9	「戦争の歴史の隠蔽、美化、改竄の構造的問題と市民による平和運動」等を発展させた「日本における反戦平和運動と市民的勇気」の劉燕子による中国語訳である。戦争の歴史の検証を経た認識に立ち平和を構築・維持することの意義を実践に基づいて論じた。06年7月に独立中文筆会HP掲載された。
57. もっと知りたい—「子どもの目に映った戦争」原画展の記録—	共編著	2006年11月	社会教育学研究、第11号、大阪教育大学社会教育研究室 126頁 (分担) pp. 104-108	田中賢作との共編著。1986年から87年にかけて全国55カ所で開催された「子どもの目に映った戦争」原画展について、各地の資料、写真、報道記事などを編集し、平和教育や社会教育における意義を世界史的視座から論じた。「『子どもの目に映った戦争』原画展の意義」を分担執筆した。
58. 記憶の風化と歴史認識に関する心理歴史的研究—抵抗と転向の転倒—	単著	2007年4月	社会教育学研究 第12号 大阪教育大学社会教育学研究室 pp. 1-59	博士論文「平和教育の思想と実践」を発展させた『平和教育の思想と実践』(同時代社)に収録しきれなかった論文をまとめたものである。主観性と客観性、記憶と認識を統合する視座から全体主義への抵抗者を転向したと誤認することと獄中非転向と思わせた者をめぐる心理歴史的問題などを考察した。
59. P. ブルデュにおける実践の社会教育的研究(Ⅲ)—亡命中国人社会学者のマージナルな視点によるブルデュとトゥレーヌの比較考察—	単著	2007年9月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第56巻第1号 pp. 133-148	1989年の天安門事件によりフランスに亡命した亡命中国人社会学者、張倫の観点からアラン・トゥレーヌとピエール・ブルデュを比較考察した。ブルデュは、アルチュセール、フーコーと共に社会の支配統制の問題に迫ったが、その普遍性に関しては、中国の支配統制の現実を踏まえると不十分である。他方、トゥレーヌはこの現実に関心を向け、また、彼の追究した「新しい社会運動」論は、それを乗り越える内容を擁している。さらに、張の観点では、ブルデュたちと同様にポストモダンの思潮において注目されたデリダの議論は疑問であり、またリクールは良心的な知識人である。
60. 「生涯教育と人間形成」特別講義に関する実践的研究：私はどこからきて、どこへいくのか	共編著	2008年3月	社会教育学研究、第13号、大阪教育大学社会教育研究室 78頁 分担：pp. 1-3	田中賢作との共編著。「私はどこからきて、どこへいくのか」というアイデンティティ形成をテーマにした特別講義「生涯教育と人間形成」という大学、高等教育の授業実践分析をアクション・リサーチ的にまとめたものであり、特に「主旨と経緯」、「考察と課題」を分



			pp. 73-77	担執筆し、全体を編集した。
61. 現代社会教育における反省(省察)と弁証法	単著	2008年5月	月刊社会教育 No. 632 2008年6月号 pp. 78-80	教育学において「反省(省察)」(特にD. シューン)が多用される状況に対して、西田、三木、宮原の学的系譜を踏まえて、弁証法の意義を提起した。「反省」を個人の発達と組織の発展の契機にするためには、認識と実践の双方において弁証法が求められることを明らかにした。
62. アイデンティティと歴史の自己教育的研究(I)ーライフヒストリーとヒストリカル・モメントに即してー	単著	2008年9月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第57巻第1号 pp. 171-185	フロイトとエリクソンの心理歴史的研究に基づき、無限の世界における歴史とアイデンティティを自己教育論の視座から研究するための基本的な枠組みを構成するために、時代状況におけるライフヒストリーとヒストリカル・モメントの相関性、自己教育と主体性の弁証法、自己分析の弁証法について、ソクラテス、アリストテレス、パスカル、ヘーゲル、フォイエルバッハ、マルクス、ハイデガー、アルチュセール、フーコー、ブルデュー、西田幾多郎、三木清、宮原誠一たちの思想や理論を考察した。
63. 日本イデオロギーとしての「自由主義史観」の考察と課題	単著	2008年11月	季報唯物論研究 第106号 pp. 121-145	「自由」な歴史観という表現で戦争の歴史の隠蔽、美化、改竄を試みる議論を日本的なイデオロギーの問題として考察し、それを乗り越える課題を導き出し、平和教育の思想と実践の研究を発展させた。
64. いわゆる「南京事件」の研究と教育	共編著	2009年1月	社会教育学研究 第15号 大阪教育大学社会教育研究室 全37頁	この分野の第一人者である防衛省防衛研究所戦史部所員、軍事史学会副会長の原剛との共編著。日本の戦争責任に関して最重要のテーマの一つである「南京事件」の多角的な考察をテーマにした大学の特別講義のアクション・リサーチ的なまとめであり、特に視点、発端、実施などの経緯を述べ、原氏のレジュメや受講生のレポート、それへの原氏のコメントなど全体を編集した。前掲『「ザ・レイプ・オブ・南京」を読む』の研究の発展でもある。
65. P. ブルデューにおける実践の社会教育的研究(IV)ー象徴的暴力と物理的暴力の統合的認識ー	単著	2009年2月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第57巻第2号 pp. 193-208	象徴的暴力を物理的暴力と関連させ統合的に理解することによりブルデューの研究を発展させた。そのために、まず知識人論に即して文化資本を考察してブルデューの「反省」的認識論の意義を明らかにし、それを踏まえて象徴的暴力の機能作用を検討し、これに対する実践的対応として「二重の思考(パスカル)」が重要であることを示した。特に、象徴的暴力の理解をさらに深めるために、マルクス主義における思想闘争と知識人、レーニンの思想闘争とスターリン政権下の知識人迫害、中国革命の思想闘争(特にプロレタリア文化大革命)と考察を進め、象徴的暴力と物理的暴力の統合的認識を示した。また、この問題はマルクス主義だけでなく、帝国主義やファシズムにもあり、特に大日本帝国の軍国主義や天皇主義における物理的暴力と象徴的暴力、そして知識人の対応の研究を課題として提示した。
66. 五十嵐顕「教育費と社会」を自己教育の視点から読む(4)	単著	2009年3月	社会教育学研究 第16号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 5-14	五十嵐の草稿「教育費と社会」を自己教育の視点から読むの1, 2, 3の続編であり、『平和教育の思想と実践』では取りあげきれなかったものを考察した。五十嵐の教育行政学は、経済と教育の総合的な認識を目指したものであることを示した。
67. アイデンティティと歴史の自己教育的研究	単著	2009年9月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学	フロイトとエリクソンの心理歴史研究をヴィクトル・フランクル、ジュディス・ハーマンなどにより発展さ

(II) : アイデンティティとハビトゥスの連関			第58巻第1号 pp. 279-294	せ、それをパスカルとブルデューの研究と組み合わせ、アイデンティティとハビトゥス(ヘクシス)の連関を示し、西田や宮原の形成と教育の考察を介して自己教育の研究に結びつけた。その中で歴史と社会を時間と空間を統合した時空間と捉え、前回の「アイデンティティと歴史の自己教育的研究(I)」で用いた「モメント」に加えて「ベクトル」も心理歴史的に援用する意義を示した。
68. 日本イデオロギーにおける和辻哲郎の位置：広松渉との関連において<前・後>	単著	2009年11月 2010年5月	季報唯物論研究 第110号 pp. 118-129 同、第112号 pp. 109-117	前掲「日本イデオロギーとしての『自由主義史観』の考察と課題」を発展させた論文である。「自由主義史観」の先行形態として和辻哲郎を批判し、また右派的で歴史を美化する和辻を評価する広松渉は、左派のように見せつつ、対立・矛盾を止揚する弁証法は不徹底であること等から、和辻と同じ水準で、いずれも日本イデオロギーの現象形態であることを明らかにした。
69. 戦争と平和をめぐる教育と非教育の弁証法	単著	2009年12月	『非「教育」の論理』明石書店 348頁 pp. 155-188	戦争と平和をめぐり、「非」を否定による発展と捉え、「非「教育」」というテーマに即して、ゲネシス(生成)とポイエシス(制作)、形成と教育の弁証法を、西田幾多郎、三木清、鈴木庫三、宮原誠一思想と実践に即して考察を進めた。博士論文、および『平和教育の思想と実践』の発展でもある。
70. アイデンティティの探求におけるタナトスとエロスー人間教育の存在論的研究のためにー	編著	2010年2月	社会教育学研究、第17号、大阪教育大学 社会教育研究室 全121頁	前掲「私はどこからきて、どこへいくのか」というアイデンティティ形成をテーマにした特別講義のアクション・リサーチの発展であり、朝治武とのI「戦争と差別(タナトス)」、真木柁鷹とのII「ジェンダー、セクシュアリティ(エロス)」という編集で、アイデンティティ形成をタナトスとエロスを鍵概念にして存在論的に探究した。 執筆担当部分は「緒言：アイデンティティの探求におけるタナトスとエロスー人間教育の存在論的研究のためにー」(pp. 1-2)、特別講義1「戦争と差別(タナトス)ー経緯と構成」(p. 3)、「特別講義を実践して」(pp. 47-62)、特別講義2「ジェンダー、セクシュアリティ(エロス)ー経緯と構成」(p. 63)、「多様なセクシュアリティ、ジェンダーーエディプスコンプレクスの再検討を手がかりにー」(pp. 109-121)
71. P. ブルデューにおける実践の社会教育的研究(V)ーブルデューのサルトル批判の批判を通してー	単著	2010年2月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第58巻第2号 pp. 185-200	ブルデューがブローデルの『地中海』を論評する中で言及した「長期的過程」の視点を以て、彼とサルトルを比較考察し、サルトルの否定としてのブルデューのさらなる否定という弁証法を論じた。そして、サルトルのアンガージュマンを実践論として、全体的知識人を主体論として改めて考察し、その現代的な意義を示した。これを踏まえてさらに「P. ブルデューにおける実践の社会教育的研究」IVに続き、象徴的暴力と物理的暴力の考察を進め、中国の天安門事件に即してアンガージュマンと全体的知識人の概念の意義を提起した。
72. 「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録(1)	共編著	2010年7月	社会教育学研究、第19号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-112	田中賢作との共編著。1988年から99年まで、全国で110回も開催され、約90万人の入場者を数えた「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の博物館活動を、記録集、新聞記事、チラシ、ポスターなどの資料に基づいてまとめ、社会教育、自己教育としての意義を示し、「アウシュヴィッツを伝えるために」を分担執筆した(pp. 1-5)。
73. 亀有学生セツルメン	単著	2010年8月	社会教育・生涯学習	1973年における筆者の亀有学生セツルメントにおける

トの自己分析			研究所年報 第6号 pp. 116-130	実践を自己分析し、時代と交錯した自己形成の一過程を論じた。『アイデンティティと時代』の予備的な論文であり、また自己の思想や実践に関する成人期における中間的な総括でもある。
74. アイデンティティと歴史の自己教育的研究 (Ⅲ) —エディプスコンプレクスを起点とした性愛の発達に即して—	単著	2010年9月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第59巻第1号 pp. 277-291	アイデンティティと歴史の連関について、エリクソンの「チャート」を援用し子供期のエディプスコンプレクスから青年期の徳＝活力たる「忠誠」、若い成人期の「愛」、成人期の「ケア」、老年期の「叡知」への性と愛を基軸にした発達を考察した。まずエディプス期の心理機制を前エディプス期、エディプス期、後エディプス期と区分し、母子密着から「自律性」への発達過程を明らかにし、これを起点に小児性欲が潜伏期を経て、「忠誠」、「愛」、「ケア」、「叡知」へと発達する過程の弁証法を明らかにした。
75. 複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究(I)	単著	2011年2月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第59巻第2号 pp. 253-266	大阪教育大学紀要に連載してきた「P. ブルデュにおける実践の社会教育的研究」や「アイデンティティと歴史の自己教育的研究」の発展を目指し、象徴的暴力と物理的暴力を統合して複合的暴力の概念を提出し、それを用いて、「ディスカールのゲーム」が広がるポストモダンの後の状況を批判し、自己教育の課題を提起した。
76. 天災と人災を乗り越えて：アウシュヴィッツ平和博物館（白河）からの報告	単著	2011年5月	ヒューマンライツ、 No. 278 pp. 6-14	2011年3月11日に起きた東日本大地震とその後の原発事故が複合した大災害の実情を調べるために、直後にアウシュヴィッツ平和博物館のある白河から郡山まで赴き、困難な状況下でも、それを乗り越えようとする人々の実践を論じた。
77. アイデンティティと歴史の自己教育的研究 (Ⅳ) —日本的ハビトゥスとしての「甘え」を乗り越えるために—	単著	2011年9月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第60巻第1号 pp. 221-231	合理性と非合理性の議論を、快樂原則と現実原則の考察を通して自由の多面的な理解にまで展開し、これに基づき土居健郎が「甘え」と概括する性向が日本的ハビトゥスであることを示し、それを乗り越える自己教育の実践論としてパウロ・フレイレの「自由のための文化行動」があることを論じた。
78. 複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究(Ⅱ)	単著	2012年2月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第60巻第2号 pp. 159-170	グローバリゼーションにおける複合的暴力を研究するために、西洋と東洋の対比、交叉、交流の観点から合理性と非合理性の弁証法を論じ、真理をめぐる闘争において主体的実践的な弁証法的唯物論の意義を示し、具体的に舞台芸術の実践に即して進めた戦争の歴史の共通認識と平和教育の自己教育のアクション・リサーチをまとめた。
79. 「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録(2)	共編著	2012年1月	社会教育学研究、第22号、大阪教育大学 社会教育研究室 pp. 1-141	田中賢作との共編著。前掲「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録・1の続編であり、さらに考察を深めた。全体の編集とともに、この共同研究を中間的に総括した「あとがき」を分担執筆した。
80. 帝大セツルメントに関する一考察	単著	2012年7月	社会教育学研究、第24号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 30-46	関東大震災の被災民救援から生成した帝大セツルメント、それと密接に連動した無産者医療運動、その中の葛飾・青砥および亀有の無産者診療所などの実践をまとめ、これが戦後に再建された東大セツルメント、その中の亀有セツルメントの先史であることを明らかにした。
81. 亀有セツルメントの創生期—帝大セツルメントから東大セツルメントへの歴史において—	単著	2012年8月	社会教育学研究、第25号、大阪教育大学 社会教育研究室 pp. 116-130	亀有セツルメント診療所所長高野勲（津山直）追悼特集を編集し、その解説論文として、現在、東京・足立のセツルメント診療所に保存されている資料を中心に帝大セツルメントから東大セツルメント、亀有セツルメント

				(特に創生期) への関連を心理歴史的に詳述した。
82. アイデンティティと歴史の自己教育的研究(V)—エディプスコンプレクス、去勢コンプレクス、デモーニッシュなものに即して—	単著	2012年9月	大阪教育大学紀要第IV部門教育科学第61巻第1号 pp. 285-296	E. フッサールの志向性などの概念により心理歴史的ベクトルの概念をより充実させ、それを発達論に引きつけて善と悪の弁証法に適用し、西洋と東洋・日本を交差・交流させる枠組みから、西田幾多郎や三木清のデモーニッシュなもの意義を提出した。そして、前者ではエディプスコンプレクスと去勢コンプレクスの連関、後者ではエディプスコンプレクスと「快樂の活用」(M. フーコー)を論じ、それを『源氏物語』の心理歴史的的分析へと展開し、日本的なセクシュアリティにおける「快樂の活用」と、それがデモーニッシュなものに転化する危機を内包していることを示した。
83. 「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録(3)	共編著	2012年12月	社会教育学研究、第26号、大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-113	田中賢作との共編著。前掲「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録・1、2の続編であり、さらに考察を深めた。全体の編集とともに、日本では昭和から平成になり、海外では天安門事件やベルリンの壁の崩壊が起きた1989年に焦点を当てて「状況——九八九年の前後——」を分担執筆し、巡回展の時代背景を論じた。
84. 複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究(III)	単著	2013年2月	大阪教育大学紀要第IV部門教育科学第61巻第2号 pp. 177-189	前掲「複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究」のI、IIを踏まえ、西洋におけるデカルト、パスカル、ルソー、カント、ヘーゲル、東洋における孔孟や老荘の思想を考察し、前者の積極性主体性と後者の諦観を対比し、後者においても王陽明の知行合一に注目し、それが毛沢東思想の暴力革命武装闘争論に進んだことを批判し、その上で、西洋のクルト・レヴィンのアクション・リサーチを日本の教育に摂取した宮原誠一の生の意義を知行合一に即して明らかにした。
85. 宮原教育学から学ぶこと—生き方の探究としての自己教育—	単著	2013年3月	社会教育・生涯学習研究所年報第8号 pp. 99-110	宮原の進めた自己教育としての社会教育、学問と実践の統合たる知行合一のアクション・リサーチは、彼自身の生き方と深く密接に関連していたことを論じた。その生(ライフ)は生涯教育(ライフロング・エデュケーション)を存在論的に研究する上で極めて重要であることを明らかにした。
86. 思想を燃焼して灯す平和の明かり	単著	2013年5月	月刊社会教育 pp. 44-52	西田、三木、宮原という思想と実践の系譜を踏まえ、グローバリゼーションにおいて外交と内政が密接に相関する状況下、宮原の「最も実践的な末端」、「這い回る経験主義」の概念やサークル論には現代的な意義があることを論じた。
87. 安全と社会教育実践	編著	2013年8月	社会教育学研究第28号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-135	外務省外交講座「人道支援」をアクション・リサーチとして学部の授業(生涯教育原論と生涯教育計画論)において行い、平和教育の研究をさらに発展させた。また大学院の授業(生涯教育組織論特論)では防災を中心に共同研究「事前復興・シミュレーション」としてアクション・リサーチを進めた。両者を安全を鍵概念に関連づけ、防災、防犯、防衛の三つの側面から平和にアプローチすることの意義を示した。 執筆担当部分:p. 1, p. 87, p. 135 (他は区分不可能)
88. アイデンティティと歴史の自己教育的研究(VI)—エディプスコンプレクスに凝縮された個体発生と系統発生の相関性	単著	2013年9月	大阪教育大学紀要第IV部門教育科学第62巻第1号 pp. 181-193	エディプスコンプレクスを、類人猿から人類への過渡期における子殺し、その代替としての去勢、その儀式化としての割礼、子どもの反抗、兄弟同盟、親殺し、トーテム饗宴とカニバリズムにおいて生じた心理歴史的現象に即して多角的に考察し、親殺しの後の後悔(フロイ

—				ト) や罪悪感 (エリクソン) が自省・反省、自己分析、自己教育の原点であり、これを意識化し、より高い次元へと発達させることで、自己教育を発展させられることを明らかにした。
89. 複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究(Ⅳ)ーエロスとタナトスの複合の心理歴史的研究(1)ー	単著	2014年2月	大阪教育大学紀要第Ⅳ部門教育科学第62巻第2号 pp. 89-101	前掲「P. ブルデュにおける実践の社会教育的研究」(Ⅰ～Ⅴ)、「複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究」(Ⅰ～Ⅲ)、「アイデンティティと歴史の自己教育的研究」(Ⅰ～Ⅵ)に立脚し、東アジアの性のハビトゥスに主題を定置し、その現象形態としての「慰安婦」をエロスとタナトスの複合の観点から考察し、その前史たる日本の「からゆきさん」と娘の「身売り」、及び半島や大陸の拉致、人身売買、貧困、不就学の状況について追究した。
90. セツルメントと知行合一の精神ー「這い回る経験主義」と「最も実践的な末端」に着目してー	単著	2014年3月	社会教育学研究第30号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 34-44	宮原がデューイの経験・実験主義教育から提起した「最も実践的な末端」、「這い回る経験主義」を用いて教育実践研究方法論を発展させるべく、『大阪教育大学紀要』連載「アイデンティティと歴史の自己教育的研究」や「複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究」をセツルメントに即して展開した論文である。宮原は研究と実践を統合したアクション・リサーチを進めたが、それはセツルメントの精神と適合し、東アジア的には知行合一と捉え直せると論じ、西洋と東洋の思想的実践的統合を試みた。
91. アイデンティティと歴史の自己教育的研究(VⅦ)ーエディプスコンプレックスの心理歴史的考察ー	単著	2014年9月	大阪教育大学紀要第Ⅳ部門教育科学第63巻第1号 pp. 193-205	アイデンティティと歴史の交差における自己教育の研究を、エディプスコンプレックスに凝縮された個体の発達と歴史の発展を心理歴史的に考察することにより発展させた。歴史に神話や伝承を接続させるために合理性と非合理性を心理歴史的に統合する視座を提示し、個体発生と系統発生の相関性を論じ、それを西洋のヘブライズムとヘレニズム、東洋の中国と日本の古代史に即して検討し、日本は東洋でも東洋的専制やアジア的停滞の影響が少なく、固有の自由や民主主義が生成していたことを明らかにした。
92. 安全と社会教育実践	編著	2014年10月	社会教育学研究、第31号、大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-96	「安全と社会教育実践」を基軸に学部の授業で行った外交講座「人道支援」と大学院の生涯教育組織論特論の成果をアクション・リサーチ的にまとめ、安全を鍵概念に平和教育を発展させた。後者の「限界状況における安全に関する考察ーアイデンティティと人間的強さの観点による日本と海外のプレーヤーの経験論的比較ー」(p. 72-91、区分不可能)は、優秀なトレーナーで大阪教育大学院生の今柳田剛生との共同研究である。
93. 「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録(4)	共編著	2015年1月	社会教育学研究、第32号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-136	田中賢作との共編著。前掲「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録・1、2、3の続編であり、さらに考察を深めた。全体の編集とともに、「秋田展を支えた「地の塩」ーブラック・ジャーナリズムとの闘いで果たした役割ー」を執筆し、ボランティア活動の困難さを深層から明らかにした。
94. 複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究(V)ーエロスとタナトスの複合の心理歴史的研究(2)ー	単著	2015年2月	大阪教育大学紀要第Ⅳ部門教育科学第63巻第2号 pp. 135-147	複合的暴力の現象形態たる性と戦争が結合した「慰安婦」の考察を深めるべく、日本列島と中国大陸における「からゆきさん」、朝鮮半島における東洋的専制・家父長制・中華思想的冊封体制における性的ハビトゥス、中国大陸における纏足や「盲妹」を心理歴史的に検討し、「慰安婦」の「恨」を乗り越えた「意味への意志」への

95. 川上徹氏を追悼して—アイデンティティとイデオロギーの交叉や交錯—	単著	2015年5月	季報唯物論研究 第131号 pp. 160-171	可能性を論じた。その上で、西欧と日本の共産主義を取りあげ、『共産党宣言』における「婦人共有」、日本共産党の「ハウスキーパー」、そして野坂参三、宮本顕治、毛沢東、劉少奇、マルクスの性的実践から、性的ハビトゥスの根深い強韌さや普遍性を示した。  『アイデンティティと時代』を発展させた研究である。「新日和見主義」、「民主集中制」、「拡大」などのイデオロギー的な特質、その機能や作用を考察し、それと交叉・交錯したアイデンティティ形成を川上徹に即して論じ、自己分析と重ね合わせた。
96. アイデンティティと歴史の自己教育的研究 (Ⅷ)—エディプスコンプレクスの心理歴史的考察 (2) —	単著	2015年9月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第64巻第1号 pp. 253-266	アイデンティティと歴史の自己教育的研究(Ⅷ)—エディプスコンプレクスの心理歴史的考察(1)を補強するため、ヘブライズム、ヘレニズム、日本の神話や伝承に関する非合理的なディスクールの合理的な分析から、エディプス的な子殺し/父殺し、父に対する兄弟同盟、家父長の下での兄弟の争闘、及び一夫多妻から一夫一婦への発展を析出し、それを踏まえ、考察を現象学から実存主義の検討を通して存在論的に深めるべく、合理性と非合理性を認識論的に統合・止揚した先行研究としてパスカルを重視し、その意義をレヴィットや三木により示し、その中でアドルノがハイデガー「本来性」は茶番の類いと剔抉した批判を論じ、人類の発展と個人の発達の本源に潜むデモニッシュなエディプス・コンプレクスの心理歴史的な研究は、パスカル〜三木の思想と実践に立脚すべきであることを明らかにした。
97. 東大セツルメント・亀有セツルメントに関する共同研究	編著	2015年12月	社会教育学研究 第35号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-80	戦後、東京大学学生自治会が中心になり帝大セツルメントを再建して東大セツルメントを発足させた。帝大セツルメント閉鎖後も青砥・亀有で引き継がれた無産者診療所を継承して亀有セツルメントが始まった。この歴史的な意義と現代の課題についてまとめた。
98. 複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究(Ⅵ)—エロスとタナトスの複合の心理歴史的な研究 (3) —	単著	2016年2月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第64巻第2号 pp. 113-126	東洋と西洋を通底する性的ハビトゥスの強韌さを、東洋における日本の売女と中国の婬子の音韻的な関連性、中国の売買婚の童養媳、新婦仔、東洋の中近東(中や近は西洋の視点から)の古代における神聖娼婦、西洋近代の『共産党宣言』の「女性共有」、中国共産党と人民解放軍の新疆「辺境守備開拓団女性兵士」、日本共産党の「ハウスキーパー」に即して具体的に詳しく論じ、それを乗り越える生と性が小林多喜二の『党生活者』に描かれていることを明らかにした。
99. ICTを活用したアクティブ・ラーニングのアクション・リサーチリアル空間とヴァーチャル空間により重層的に構成された「学園」の拡張・開放—	単著	2016年3月	大阪教育大学情報処理センター年報 第19号 pp. 54-67	高学歴化と高度情報社会に伴う課題に対して、大学の授業実践においてICTを導入し、インターネット空間を利用したアクティブ・ラーニングを実践したことをアクション・リサーチに即して考察した。そして、公共性がヴァーチャル空間にまで広がっているという認識を以て、リアル空間とヴァーチャル空間のコミュニケーションの相乗効果により「学園」が重層的に拡張・開放されることを論じた。
100. アイデンティティと歴史の自己教育的研究 (Ⅸ) : 進化論やマルクス主義に即した合理性と非合理性の統合的認識の考究	単著	2016年9月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学 第65巻第1号 pp. 147-165	アイデンティティと歴史の力学を生き生きと生き抜く自己教育の研究のために、個体発生と系統発生の相関性の心理歴史的にアプローチにより、エディプス・コンプレクスは人類進化の鍵概念であり、また個人の発達と社会の発展の原動力でもあり、その理解のためには合理性と非合理性の統合的な認識が必要であるということまで

				考察を進めてきた。これを踏まえて進化論、マルクス主義、構造主義、ポスト構造主義、ポスト・モダン、ネオ・マルクス主義、アントロポロジー（人類学・人間学）、経済人類学の交錯・展開を考察し、L. アルチュセールの哲学的な実践（praxis）と闘争の意義を示した。確かに現象において、彼の実践は信仰による救済から世界革命による解放へと変わったが、B. パスカルの提示した精神を無限に無限に超える慈愛の次元においては、救済・解放を必要とする者の側に立ち、抑圧者と闘い続けた。彼らの生（life）の探究は生涯教育（lifelong-education）にとって意義がある。
101. この子に伝えたい「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録(5)	編著	2017年1月	社会教育学研究 第37号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-124	記録集など冊子でまとめられた心に刻むアウシュヴィッツ巡回展の記録の第5回で、最終回である。全体の編集とともに「アイデンティティとアウシュヴィッツ ―二度目の総括とルーツ(根)からの自己分析のために―」（pp. 89-124）を分担執筆した。
102. 複合的暴力に対する自己教育の思想と実践に関する研究(VII) ―「慰安婦」を軸にした小著『アイデンティティと戦争』の自己分析と発展―	単著	2017年2月	大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学, 第65巻第2号 pp. 297-315	エロスとタナトスの複合であり、性差別・収奪・搾取の戦時的現象形態となった「慰安婦」に関する虚偽・錯誤を名誉という徳＝活力を軸に分析し、その問題の本質を洞察した。これは私が2002年に出版した『アイデンティティと戦争』の成果を改めて自己分析して発展を目指したの試みでもある。
103. 無限に学習するAIと人間の共同的アクション・リサーチに関する考察―持続可能な発展／開発に向けて―	単著	2017年3月	大阪教育大学情報処理センター年報 第20号 pp. 7-23	前掲「ICTを活用したアクティブ・ラーニングのアクション・リサーチ」を承け、シンギュラリティが迫る状況において情報社会の絶えざる高度化に対応する高レベルの学習のために、人間はAIと無限に共同学習・研究し続けることが求められ、それが持続可能な発展／開発をもたらすアクション・リサーチとなることを論じた。
104. 藤田秀雄ゼミの意義と継承―良知とアクション・リサーチ―	単著	2017年5月	社会教育学研究 第38号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-49	東京大学教育学部宮原研究室第一期生の藤田秀雄がアクション・リサーチを自分のゼミでも実践したことの意義を明らかにした。編著『戦中戦後 少年の日記 1944-45年』の後の藤田のライフ・ヒストリーのまとめにもなる。それは宮原以後の東大教育学のアクション・リサーチの研究の一環でもある。
105. 東大教育学を対象とする自分自身のコンプレクスを問う―アイデンティティと歴史の自己分析―	単著	2017年5月	社会教育学研究 第38号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 99-114	2010年刊『アイデンティティと時代』を発展させた心理歴史的なアクション・リサーチと自己分析を中心にまとめた論文である。出身の東大教育学を対象とする自分自身を自省し、そのコンプレクスを析出することで、東大教育学におけるアクション・リサーチの意義を明らかにしつつ、自己分析をさらに進めた。
106. 同じ喜びと悲しみの中で：子どもと遊び、子どもに学ぶ	単著	2017年7月	文藝別冊―かこさとし 人と地球の不思議とともに― 河出書房新社 pp. 132-138	絵本作家のかこさとしのライフヒストリーと業績を多角的に把握する特集の中で、青年期の東大セツルメント再建時における実践を切口に、絵本を形成と教育の観点で読む意義を明らかにした。帝大セツルメントの再生と若き学徒のアイデンティティ形成がダイナミックに交叉する中で、子供と遊ぶ中で子供を育てると同時に子供から学ぶという自己教育・相互教育が実践されていた。そして、E. エリクソンやK. レヴィンを応用して喜びや悲しみを同じくする共感共苦は道徳性の発達に重要であることを示した。
107. アイデンティティと	単著	2017年9月	社会教育学研究	大阪教育大学紀要に連載してきた「アイデンティティ

歴史の自己教育的研究 (X)：総括			第39号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 74-98	と歴史の自己教育的研究」を一区切りさせた総括である。『社会教育学研究』に掲載したのは紀要には一論文のみだからである(後述の「三木清の生と死 一聖の遍在(Allgemeine das Heilige)のもと時を生き死ぬ(zeitigen)一」が紀要に)。この総括が「ルーツとアイデンティティの心理歴史的研究—天皇制に関する心理歴史研究と自己分析—」(後述)の起点にもなった。
108. ルーツとアイデンティティの心理歴史的研究：天皇制に関する心理歴史研究と自己分析	単著	2018年1月	社会教育学研究 第40号 大阪教育大学社会教育研究室 pp. 1-68	大阪教育大学大学院健康科学専攻の院生との共同研究「日本のルーツに関する心理歴史的な研究」の中の一論文である。象徴天皇制の形成が自分自身のルーツに関わっていることを心理歴史的に自己分析し、アイデンティティと歴史の交錯にアプローチした。
109. この子に伝えたい「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録(6)	共編著	2018年2月	社会教育学研究 第41号 大阪教育大学社会教育研究室 全109頁 分担執筆：pp. 1-14 共編：pp. 15-108 (区分不可能)	アウシュヴィッツ平和博物館初代館長の青木進の遺した巡回展の初期の資料(冊子にまとめられていないニュースレター、葉、チラシ、写真等)を整理し、その変化の特徴を考察し、組織的な動員方式次第に市民の自発的参加による実行委員会方式が確立したことを明らかにした。特に第22回小倉展が重要であることを、実行委員のメモに基づいて指摘した。
110. 江戸時代における科学観から科学的精神への発展と学の自由：社会教育発展史の一過程	共著	2018年2月	大阪教育大学紀要 総合教育科学 第66巻 pp. 249-263	堀幸俊との共著で、日本では「科学」という用語のない時代から、内実や本質において科学観から科学的精神への発展があったことを、封建的江戸期でも市場経済的自由競争と学の自由が着実に進んだ大坂の町人文化に即して、また宮原誠一の形成と教育の枠組みに基づき、社会教育発展史の一過程として明らかにした。
111. 三木清の生と死：聖の遍在(Allgemeine das Heilige)のもと時を生き死ぬ(zeitigen)	単著	2018年2月	大阪教育大学紀要 人文社会科学・自然科学 第66巻 pp. 151-169	『平和教育の思想と実践』を発展させるための東大教育学の思想と実践の研究の一つである。「聖」に即した実践倫理の考究でもある。中井正一や羽仁五郎の三木清論に基づき、三木が「聖の遍在」という至高の次元においてデモーニッシュな歴史や時代と格闘し、未来を創造しようとし、死んだこと＝生涯の発達と学習の意味・意義を明らかにした。この次元は三木の思想と実践の起点となったパスカルの肉体を無限に超えた精神をさらに無限に超えた愛の次元に照応することを論証した。
112. 道徳教育と実践倫理：「よく生きる力」を育てるために	単著	2018年12月	関西教職教育研究 第3号 pp. 1-17	ヘレニズムにおけるソクラテス、ヘブライズムにおけるアウグスチヌス、科学を乗り越える信仰を追究したパスカル、東西の最高水準の思想を統合した西田幾多郎や三木清に即して実践倫理を考察し、それに基づき小中高における道徳教育、大学における実践倫理の教育のアクション・リサーチをまとめた。フロイトやエリクソンを踏まえて「徳＝力(virtue)」を鍵概念として「生きる力」を育てる道徳教育を提起した。古典の単なる祖述・評釈に終わらず、実践への応用に主眼を置いている。独創的であるが空論に流れず実践に資する内容になっている。
113. 世代的アイデンティティと世代のサイクル：「過現未」の心理歴史的な応用として	単著	2019年1月	社会教育学研究 第44号 pp. 1-34	エリクソンのアイデンティティ、ライフサイクル、世代のサイクルの鍵概念を応用して戦後史を「少国民世代」、「団塊の世代」から「バブル世代」、「ゆとり世代」など世代のアイデンティティに即して心理歴史的に考察し、現代の課題としての「日本再生」、「教育再生」について論じた。



114. 家庭教育と徳＝活力(virtue)の発達：生涯学習の観点から	単著	2019年1月	社会教育学研究 第44号 pp. 40-62	エリクソンの8×8＝64の生涯発達論のチャートに胎児期、思春期、更年期、死期を加えて12×12＝144に発展させ、各段階・事項における家庭教育の役割と徳＝活力(virtue)の発達について考察した。virtueの語義に即して「徳」は「力」でもあり、道徳教育と生きる力の育成の論理的関連性を明らかにした。
115. 三木清の生と死(2)：饒舌な偽善と沈黙の意味	単著	2019年2月	大阪教育大学紀要 人文社会科学・自然科学 第67巻 pp. 277-298	大阪教育大学紀要前巻掲載の「三木清の生と死—聖の遍在(Allgemeine das Heilige)のもと時を生き死ぬ(zeitigen)—」に基づき三木の沈黙の意味を心理歴史的に分析し、彼の生と死の意義を明らかにした。これにより深層に封印されてきた歴史の一齣(高倉テルを使った官憲の「世にもきたない謀略」)を明らかにし、その問題を多角的に検討し、未来に向けた重大な教訓とすることができた。
116. 鈴木庫三の学位論文第一篇「人格と道徳生活」を読む—和辻哲郎との「大論争」を切口に—	共著	2019年2月	大阪教育大学紀要 総合教育科学 第67巻 pp. 245-268	堂本雅也との共同研究で、陸軍情報将校(大佐)鈴木の学位論文第一篇「人格と道徳生活」の意義を論証することを目指し、鈴木と和辻の「大論争」に着目し、和辻の西洋近代哲学の理解のレベルを評価し、鈴木との比較の前提的予備的考察とした。これにより軍人における道徳教育の重要性を明らかにした。
117. グローバリゼーションにおける地域社会教育の経営の課題—「チーム学校」の角度から—	単著	2019年8月	関西教職教育研究 第5号 pp. 25-31	社会教育主事養成のカリキュラム改定を見据え、変化がダイナミックに加速するグローバリゼーションに対応し得る社会教育のあり方を、学社連携の形態かつ方式である「チーム学校」に即して考察し、社会教育の経営においては「サポート」を踏まえた「セルフコントロール」が重要であることを提起した。
118. 限界状況におけるアイデンティティ・クライシスの心理歴史的的研究 (I)—慰安婦と兵士の愛と死へのアプローチ—	単著	2019年10月	社会教育学研究 第46号 pp. 1-82	慰安婦をめぐる「性奴隷」や売春など絶えない議論に対して、限界状況における兵士との愛の角度からアプローチして、歴史の政治利用や知の頹廃などが絡みあう問題を解明し、再構成を通して悲惨を乗り越えて偉大に至るための視座、方法論、志向性を提示し、歴史の政治的利用、その中で「支援」された生存者の「証言」を検討した。
119. 限界状況におけるアイデンティティ・クライシスの心理歴史的的研究 (II)—慰安婦と兵士の愛と死へのアプローチ—	単著	2019年10月	社会教育学研究 第47号 pp. 1-74	「限界状況におけるアイデンティティ・クライシスの心理歴史的的研究 (I)」を受け、雲南の守備隊で玉砕した慰安婦と兵士、及び朝鮮人慰安婦のライフヒストリーについて考察し、限界状況における愛と死の洞察を試みた。
120. 限界状況におけるアイデンティティ・クライシスの心理歴史的的研究 (III)—デモニッシュな生と死を乗り越える愛—	単著	2019年11月	社会教育学研究 第48号 pp. 1-105	「限界状況におけるアイデンティティ・クライシスの心理歴史的的研究」の (I) と (II) を受け、田村泰次郎の文学的リアリティを手がかりに慰安婦と兵士の愛と死、エロスとタナトスを心理歴史的に分析し、この研究を総括した。
121. 生涯教育とユーゴスラヴィア自主管理社会主義・非同盟平和主義—ベオグラード大学での研究ノートから—	単著	2019年11月	社会教育学研究 第48号 pp. 106-120	1983-84年のベオグラード大学での研究ノートを自己分析し、2010年代におけるユーゴスラヴィア自主管理社会主義・非同盟平和主義の意義や現実について生涯教育の角度から考察した。
122. 「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録 (7)	共編著	2019年11月	社会教育学研究 第49号 全89頁	「心に刻むアウシュヴィッツ」巡回展の記録 (6) に続き巡回展の資料(冊子にまとめられていないニュースレター、葉、チラシ、写真等)を整理・編集した。同記

			分担執筆：pp. 1-2 共編：pp. 9-88 (区分不可能)	録を終えるにあたり総括的な意味も込めて「はじめに」を分担執筆した。
123. 教育実践と批判的自省	単著	2019年11月	関西教職教育研究第6号 pp. 9-16	「反省的实践」などと訳されているreflective practiceの理解を深めるべく、reflectionは「反省」ではなく「自省」がよいと論じた上で、J. メジロウやP. フレイレの「批判的自省 (critical reflection) を考察しつつ教育実践に応用するというアクション・リサーチを以て実践分析論を発展させた。
124. 公共性の実践的構造転換と学習の認識論・I：「叢書生涯学習」(1987-1992年)の発展のために	単著	2020年2月	大阪教育大学紀要総合教育科学第68巻 pp. 249-273	ユルゲン・ハバマスの論じた市民社会の発展に伴う「公共性の構造転換」に社会教育の学習論の観点からアプローチし、その限界と意義を明らかにし、またカール・マルクスに遡及してルイ・アルチュセールと比較考察して公共性を構造だけでなく実践において認識すべきことを提起した。東京大学社会教育学研究室、日本社会教育学会の若手研究者の社会教育基礎理論研究会、「叢書生涯学習」全10巻(雄松堂)で蓄積された研究成果における教育から学習への思想的理論的実践的な転換を以て公共性の構造転換の認識を実践的に発展させた。
125. 教育実践と対話	単著	2020年3月	関西教職教育研究第7号 pp. 23-36	「教育実践と批判的自省」(『関西教職教育研究』第6号)の研究を発展させた論考である。フレイレの「対話」、「意識化」、「問題提起教育」をフッサールのノエシスとノエマの相互作用に即して認識論的に考察し、それを実践論的に高等教育(秋田大学、大阪教育大学、京都大学の授業)のアクション・リサーチに応用した。
126. 教育実践と意識化＝良心化	単著	2020年6月	関西教職教育研究第8号 pp. 17-25	「教育実践と批判的自省」、「教育実践と対話」(『関西教職教育研究』第6号、第7号)の研究を発展させた論考である。フレイレの鍵概念の「意識化(コンシャンティゼーション)」には良心の覚醒という意味も内包されていることを、当時の世界的な変動(特に中国の文化大革命と世界革命)において、非暴力の「文化サークル」として支配・抑圧に闘ったことの意義を論じた。
127. 「しつけ」を通した日本のアイデンティティの形成に関する研究：語り聞かせ、読み聞かせ、読書におけるインタラクティブな発達に即して(査読有り)	共著	2021年2月	大阪教育大学紀要人文社会科学第69巻 pp. 185-205 分担 pp. 185-193 pp. 199-205	丸本章博との共著で、アイデンティティが自己、家庭、故郷、地域、国、民族、世界、宇宙などで重層決定的に発達するという重層決定的な発達の初期の段階にアプローチし、「しつけ」という生成的な形成と意識的な教育が複合した実践の意義を明らかにした。人間形成に重要な基礎となる子供時代の「しつけ」の過程や方法を、民俗学の成果を教育学に取り入れて分析した。それにより、定型的(フォーマル)な教育だけでなく、不定型的(ノンフォーマル)および非定型的(インフォーマル)な形成についても考察を進め、「間」や「間人」が日本のアイデンティティ形成を理解するための鍵概念であることを論証した。このような「間」を通して親のみならず高齢者と子供が世代を超えて交流し「世代のサイクル(エリクソン)」を形成することを語り聞かせ、読み聞かせ、読書における子供の発達に即して考察し、それが生涯学習・教育としても重要であることを示した。
128. 公共性の実践的構造転換と学習の認識論・II：ポスト・シンギュラリティにおいて実践的公共性を担い得る専門性のた	単著	2021年2月	大阪教育大学紀要総合教育科学第69巻 pp. 253-272	「公共性の実践的構造転換と学習の認識論・I—「叢書生涯学習」(1987-1992年)の発展のために—」を承継、持続可能な高度情報化社会に対応する実践的公共性を実行できる専門性の学習にアプローチした。メジロウの学習論の起点にあるデューイの教育学の評価、デュー

めに (査読有り)				イとブルデューの「反省」に即した比較検討、デューイからアーギリスへの展開、その日本における導入、批判、展開について認識論的に考察した。これに基づき、現代世界一内／共一存在たる人々はシンギュラリティを超えてA Iが人間を凌ぐようになるからこそ人間は深層を探究・洞察しつつ崇高を目指して学習し、発達し続けねばならないことを明らかにし、その次元における実践的公共性のために、アーギリスのダブル・ループ学習とショーアの自省実践者を発展させたダブル・スパイラル学習を提出した。
129. 教育者空海：民衆教育創始者の教育思想	単著	2021年4月	今こそ教育！：地域と協働する教員養成 ミネルヴァ書房 pp. 31-44	社会、地域の変化に応じ、教育現場や体験学習を重視した教員養成を目指す高野山大学教育学科の教員たちの論集において、空海の教育思想に関して分担執筆した。非定型的な形成と定型的な教育を統合する視座から、自己教育としての社会教育の研究と実践を踏まえ、綜芸種智院を切口に空海の教育思想の普遍的な意義を明らかにし、「真」に生きる力を育てる「人間の教育」として現代に生かせることを論じた。
130. ユーゴスラヴィアの自主管理社会主義・非同盟平和主義と生涯教育：自由な全面発達のための自己教育	単著	2021年6月	社会教育学研究 第53号 pp. 11-84	ユーゴスラヴィアでの留学の成果を自省しつつ前掲「生涯教育とユーゴスラヴィア自主管理社会主義・非同盟平和主義―ベオグラード大学での研究ノートから―」を「自由な全面発達」と「自己教育」を鍵概念にして発展させた論文である。
131. 公共性の実践的構造転換と学習の認識論・Ⅲ：人工知能との協働によるトリプル・スパイラル学習を目指して (査読有り)	単著	2022年2月	大阪教育大学紀要 総合教育学 第70巻 pp. 15-34	前掲「公共性の実践的構造転換と学習の認識論」のⅠ、Ⅱを承け、内と外、公と私の二項にその中間、或いは境界を視座に加えて、重層的認識のレベルを二から三へと高め、ダブル・スパイラル学習をトリプル・スパイラル学習に発展させた。その実践は極めて困難であるが、人間とシンギュラリティに迫るA Iとの協働がそれを可能にするると論じた。
132. 西洋思想との比較を通して見た空海の教育思想の意義 (査読有り)	単著	2022年3月	高野山大学論叢 第57巻 pp. 59-76	無限において全ては相対的であるとの認識に基づき、フロイトの個人の発達と人類の発展を統合する心理歴史的研究の意義を明らかにし、彼に千年以上も先行して空海が説いた十住心論はそれに優るとも劣らないと論証し、そして、小論の研究結果を学習・教育の実践的研究に活用することを新たな課題として提出した。

<b>その他Ⅰ</b> (学会発表・講演等)				(備考)
1. 経営組織における労働者の自治能力形成の研究	単著	1981年10月	日本社会教育学会研究大会 (秋田大学)	自由研究
2. 企業と労働者 教育―その理論と現実	単著	1982年10月	日本社会教育学会研究大会 (中央大学)	自由研究
3. 戦後社会教育学習論における主体性の問題	共著	1984年10月	日本社会教育学会研究大会(東京学芸大学)	自由研究(戦後社会教育学習論関係文献目録付き)
4. 高齢者の学習における認識論的障害の研究	単著	1985年10月	日本社会教育学会研究大会 (香川大学)	自由研究
5. 現代学習内容論	単著	1986年9月	日本社会教育学会研究大会(早稲田大学)	理論研究部会「現代学習内容論」コメンテーター
6. 労働者の学習と自律的作業集団	単著	1986年9月	日本社会教育学会研究大会(早稲田大学)	自由研究
7. 社会教育の公共性を問う	単著	1987年6月	日本社会教育学会六月集会 (東京集会、	課題研究「社会教育の公共性」コメンテーター

8. 企業内教育における小集団活動(QCサークル)の意義	単著	1987年9月	創価大学 日本産業教育学会大会(千葉大学)日本	自由研究
9. アクション・リサーチ(パティシパトリー・リサーチ)と学習者の理解	単著	1988年10月	社会教育学会研究大会(九州大学)	自由研究
10. 高齢者問題と社会教育	単著	1989年6月	日本社会教育学会六月集会(東京集会、埼玉県富士見市)	宿題研究「現代的人権と社会教育」
11. 企業の教育と情報ネットワークの問題	単著	1989年10月	日本社会教育学会研究大会(神奈川大学)	課題研究「労働能力開発政策と社会教育システムの再編」
12. 成人学習の認識論	単著	1989年10月	日本社会教育学会研究大会(神奈川大学)	自由研究
13. 登校拒否問題の再検討—地域特性を中心に	共著	1990年10月	日本教育社会学会(香川大学)	自由研究
14. 生涯学習の始点でとらえた高齢者教室のあり方	単著	1991年11月	群馬県高崎市平成3年度高崎市公民館研究集会	高崎市中央公民館にて基調講演 第一分科会助言者
15. 登校拒否問題をとらえる視点—現代の学校化社会を考える—	単著	1992年2月	秋田県教育学会大会(泰山荘)	課題研究
16. 成人学習における労働とレクレーションの構成連関	単著	1993年10月	日本社会教育学会研究大会(東京都立大学)	理論研究部会「週休二日制社会と社会教育研究の課題」
17. 社会教育職員の養成・研修の体系化と専門性の問題	単著	1993年10月	日本社会教育学会研究大会(東京都立大学)	自由研究
18. 生涯学習計画の動向と社会教育概念	単著	1994年6月	日本社会教育学会六月集会(東京集会、日本体育大学)	宿題研究「社会教育法制と社会教育概念(その1)—生涯学習政策の推進と社会教育法制—」
19. 生涯学習と職業教育・訓練の状況と展望	単著	1995年9月	日本社会教育学会研究大会(明治大学)	課題研究「生涯学習と職業教育・訓練(4)」
20. 中国雲南省滇西地区における元従軍慰安婦の証言—東アジアの歴史・地理の共通認識の育成のために	単著	1998年 8月18日	韓日平和教育シンポジウム(韓国ソウル漢陽大学、後援、挺身隊問題対策協議会、太平洋戦争犠牲者遺族会、歴史問題研究所 同上	第一分科会研究報告 1997年からの雲南省滇西地区、1999年3月21-31日の上海、浙江省麗水、義烏、東陽、江西省玉山、広豊、常山、湖南省常德などでの現地調査に基づく研究報告で、秋田大学福祉組合情報誌「あお」号外に概要が掲載。
21. 韓日近代史教育の主要争点と解決法案	単著	1998年 8月18日	同上	第二分科会研究報告
22. 思春期の性の理解と発達支援—援助交際の問題に関連させて—	単著	1999年 7月8日	湯沢雄勝ふれあい県民講座(雄勝教育会館)	講演
23. 日本軍「慰安婦」問題と日本的性的ハビトゥス(habitus)	単著	2000年3月	秋田大学福祉組合	講演
24. 日中の歴史の共通認識に関するアクションリサーチ	単著	2000年7月8日	中国“慰安婦”問題国際学術研討会(上海師範大学)	研究報告
25. 細菌戦をめぐる戦後責任と歴史の共通認識の課題	単著	2000年7月28日	日本の戦争責任と歴史認識に関する国際研究会(中国社会科学院、中国抗日戦争史学会)	研究報告

26. 性差別に対する女性問題学習からジェンダーの多元的学習への展開	単著	2000年9月	日本社会教育学会研究大会 (岩手大学)	自由研究
27. “社会的排除の構造”を認識する理論枠組みにおける「象徴的暴力」と「戦闘的非暴力」の位置づけ	単著	2002年6月	教育社会学・社会教育学 東北・北海道研究集会 (秋田大学)	課題研究報告
28. 日中の歴史の共通認識と自己教育の共同的発展による未来の共同的創造	単著	2002年9月	日中国交正常化30周年記念-歴史、現実、未来をめぐる国際シンポジウム(中国、東北師範大学) 吉林省東北師範大学と日本国際交流基金の共催	研究報告
29. 戦争責任論と平和教育の課題—宮原誠一の平和教育論を継承するために—	単著	2002年10月	日本社会教育学会研究大会 (北海道大学)	自由研究
30. 歴史の共通認識と国立国会図書館の役割	単著	2002年12月	日本図書館研究会図書館奉仕&情報システム研究グループ合同例会	研究報告
31. 歴史の共通認識の基礎づけによる学習論の展開	単著	2003年9月	日本社会教育学会研究大会 (早稲田大学)	自由研究
32. 国民教育と国民文学—政治と教育、及び政治と文学の相関性を手がかりに—	単著	2004年9月	日本社会教育学会研究大会 (同志社大学)	自由研究
33. アイデンティティと戦争—歴史の力学への抵抗—	単著	2005年 7月27日	フランス高等社会科学院所属安琪ラフォス主催「自由談」	
34. 戦争の歴史の隠蔽、美化、改竄の構造的問題と市民による平和運動	単著	2005年 8月13日	太平洋戦争終結60周年国際シンポジウム: Face to face with history 台湾台北市中山堂 龍心台文化基金会	2005年8月14日付『中国時報』で報道。
35. Self-directionの翻訳史的考察—宮原誠一訳『学校と社会』を手がかりに—	単著	2005年 9月17日	日本社会教育学会研究大会(千葉大学)自由研究発表	
36. 南京大虐殺・性暴力の心理歴史的考察	単著	2007年 3月29日	南京師範大学、南京大虐殺研究センター	
37. 日中の歴史の共通認識と平和教育の課題	単著	2007年 3月31日	上海師範大学、上海社会科学院	
38. 「社会教育の公共性」の論点と課題：上に政策あれば、下に対策あり	単著	2007年 6月16日	日本社会教育学会関西六月集会、大阪市総合生涯学習センター	
39. 改定教育基本法体制における宮原社会教育学の意義	単著	2008年 9月20日	日本社会教育学会研究大会(和歌山大学)自由研究発表	
40. 心に刻み伝える「天安門事件」—日本の視座から—	単著	2009年 6月4日	「六四」二十周年燭光悼念集会、香港	ヴィクトリア公園での全体集会に先立つ文学者、詩人、アーティストたちの集いにて発言。
41. 宇佐川満の社会教育学：遺稿「文化と教育」を手がかりに	単著	2009年 9月19日	日本社会教育学会研究大会(大東文化大学)自由研究発表	
42. 大阪教育大学教養学科人間科学専攻の授業改	単著	2010年 2月22日	教養学科FDシンポジウム報告	『教育実践研究』第6号、2011年3月に掲載。

善・中間報告 43. 1970年代亀有学生セツルメントの自己分析	単著	2010年 9月19日	日本社会教育学会研究大会(神戸大学)自由研究発表 八尾市文化会館	
44. 大阪教育大学第33回人権教育全学シンポジウム「変わる若者の労働と権利」パネルディスカッションの司会	単著	2010年 12月9日		
45. 「最も実践的な末端」におけるアクション・リサーチ—おのれの生き方に関わる自己教育—	単著	2012年 9月23日	「宮原社会教育論と現代」研究フォーラム 長野県佐久一万里温泉ホテル	
46. 愛染園セツルメントの活動	共著	2012年 9月28日	石井記念愛染園・愛染橋保育園	岡本周佳と共同研究報告
47. 複合的暴力に対する平和構築：性のハビトゥス (habitus) をめぐり	単著	2013年 1月26日	第4回日韓学術交流研究大会 神戸大学	
48. 天皇の戦争責任—不起訴の史実に即して	単著	2013年 11月12日	東京審判国際学術研究会 上海交通大学	中国の国家重点プロジェクトの東京裁判研究に関する国際シンポジウムにおける研究報告。大幅に加筆した論文は趙玉蕙の中国語訳「天皇的戦争責任」（上海交通大学東京審判研究中心編『東京審判再討論』2015年7月、p. 145-180）。ただし、毛沢東の皇軍への感謝の部分は中国当局の検閲を通過できなかった（p. 543の主編の程兆奇の2015年4月1日の付記を参照）。
49. 学生セツルメントについて考える	共著	2014年 3月25日	第3回ハーモニー博物館セミナー 大阪府立大学	岡本周佳と共同研究報告
50. 東京裁判を再検討するための視座—勝者の判決を超えて	単著	2014年 6月21日	東京審判国際学術研究会 上海交通大学	先述の研究報告を発展させた研究報告。上海交通大学歴史系の国際的外部評価の会議に参加した際の研究会で報告。
51. 日中台の歴史を踏まえて台湾総選挙を考える—過現未の視座から—	単著	2016年 1月30日	大阪日台交流協会例会（大阪倶楽部）	
52. 近代史の多面的な見方・考え方—「三国志」ならぬ「四国志」？—	単著	2017年 5月27日	大阪日台交流協会例会（大阪倶楽部）	
53. 言論の自由—劉曉波との一期一会「永遠の今」—	単著	2017年 11月24日	劉曉波と言論の自由に関する国際シンポジウム 独立中文筆会 (Independent Chinese PEN Centre)、香港城市大学(City University of Hong Kong)	劉曉波と言論の自由に関する国際シンポジウム開会スピーチで、「永遠の今」（西田・三木）の視座から、劉曉波とは、2007年3月27日、北京・万聖書園で一度しか合わなかったが、その思想・詩想を通した関係性は強固に保持されていることを述べた。 11月25日、蘋果日報 (Apple Daily) でスピーチの要点が報道された。
54. 人権教育全学シンポジウムの意義と課題—開会の辞	単著	2018年 12月6日	大阪教育大学第41回人権教育全学シンポジウム	司会進行も担当
55. 日本の教育と子供たち	単著	2019年 5月1日	浙江省雁荡山风景区温州の教会学校のトリート（研修会）	中高生約50名
56. 日本の教育—生涯学習の角度から—	単著	2019年 5月2日	浙江省温州市半书房市民講座	市民約70名
57. 戦後台湾における日本資産没収の諸問題	共著	2019年 6月22日	大阪日台交流協会（大阪倶楽部）	高佳芳氏と共に講演。企画と進行も担当。
58. 明日の台湾、今日の香港、昨日のチベット…	単著	2019年 8月24日	大阪日台交流協会（大阪倶楽部）	
…				

59. 2030年の大学を考える—どうなるか、どうするか—	単著	2019年 12月7日	全国大学生生活協同組合連合会設立60周年記念シンポジウム 「未来の大学と組合員を考える～進化する大学生協を目指して～」関西北陸ブロック 大阪・兵庫・和歌山エリア (大阪教育大学)	講演。
60. 人権教育全学シンポジウムの意義と課題—開会の辞	単著	2019年 12月10日	大阪教育大学第42回人権教育全学シンポジウム「インターネット社会における人権侵害—部落差別とリテラシー—」	司会進行も担当
61. 高度情報社会における読書の意義：生涯学習における電子情報と紙の図書との相乗効果のために	単著	2022年 1月13日	社会教育振興協議会研修会（大阪北ブロック）での講演	グローバルに変化が加速する高度情報化に対処する読書活動を「チーム社会教育」で進め、ヴァーチャルとリアルの情報を活用する生きる力の育成の意義を提起。

<b>その他Ⅱ（翻訳）</b>				
1. 経営管理者の能力開発のため日本人から学ぶもの（上、下）	単独訳	1983年2、3月	産業訓練 2月、3月号 日本産業訓練協会	Howard Lim, A Japanese Agenda for Management Development, in <i>Training and Development Journal</i> , March, 1982. QCサークルの米国への影響を紹介
2. 経営管理層の能力開発の傾向：P理論の紹介—英国式組織モデル	単独訳	1984年1月	産業訓練、1月号 日本産業訓練協会	Tom Jaap, Trends in Management Development : Introducing Theory “P”
3. 一分間マネジャーとは男女両性を兼ね備えたマネジャーである	単独訳	1984年9月	産業訓練、9月号 日本産業訓練協会	K. H. Blanchard, A. G. Sargent, “The One Minute Manager is an Androgynous Manager” in <i>American Society for Training and Development, Training and Development Journal</i> , May, 1984
4. リーダーシップのための4つの能力	単独訳	1986年3月	産業訓練、3月号 日本産業訓練協会	Warren Bennis, The 4 Competencies of Leadership
5. 諸事実：地域、国家、世界の問題	単独訳	1987年6月	A Futur for Lifelong Education—ジェルピ博士来日講演会資料 一橋大学社会学部教育社会学共同研究室	Ettore Gelpi, 1987, Les faits: Problemes locaux, nationaux et mondiaux, <i>Un meccano international: Crise et creation</i> , Clancier Guenaud, Paris.
6. 国際連合の受刑者教育に関連した諸決議	単独訳	1991年3月	社会学研究、No. 15. 東京大学教育学部社会教育学研究室	United Nations Resolutions on the Prevention of Crime and the Treatment of Offenders 監獄の教育に関する決議、犯罪の防止の領域における教育、訓練、および社会啓発に関する決議、犯罪の防止と犯罪者への公正な施法、および、解説
7. 社会学的介入と企業	単独訳	1993年12月	社会学研究、第2号、秋田大学教育学研究室	Michel Vieviorka, L'intervention sociologique et l'entreprise, <i>Education Permanente</i> , No. 113, Dec. 1992. (解説と文献目録つき)
8. ユーゴスラヴィアからの声	単独訳	1996年3月	秋田魁新報 3月6日、7日	Dusan M. Savicevic, Voice from Yugoslavia, 3/12/1995. 『月刊社会教育』No. 487, 1996. 8. に「戦争における情報操作と文化の破壊」とタイトルを変えて再掲。
9. 博物館活動と平和学習	単独訳	1997年8月	社会学研究、第4号、秋田大学社会教育学研究室	Arad, Yitzhak (ed.), 1990, <i>The Pictorial History of the Holocaust</i> , MacMillan, New York. (序文と解説の部分訳)
10. 帝国博物館における	単独訳	1998年9月	秋田経済法科大学経	Anita Ballin, Teaching the Holocaust at the

ホロコースト教育			済学部紀要 第28号	Imperial War Museum, <i>The British Journal of Holocaust Education</i> , Vol. 3, No. 2, Winter, 1994.
11. 筆舌に尽くせぬ保山での日本軍の戦争犯罪	共訳	1998年12月	社会教育学研究、第5号、秋田大学社会教育学研究室	陳祖梁「日軍在保山の罪行罄竹難書」中国共産党雲南省委員会党史研究室『雲南全民抗戦』雲南大学出版社、1995年
12. 狂飲しても酔わぬ野獣のすがた	共訳	2001年2月	藍・BLUE 総第2期	黄翔, 1998, 『狂飲不酔的獸狀形』天下華人出版社
13. 精神の荒野で休むことなく咆哮する詩獣	共訳	2001年2月	藍・BLUE 総第2期	鄭義 (黄翔, 1999, 『黄翔禁毀詩選』明鏡出版社)
14. 白鳥、永遠の溪流のほとりに在りて	共訳	2001年2月	藍・BLUE 総第2期	陳建華 (『今天』1993年第3期)
15. 文革中、どれほどの人間が思想的清醒と精神的独立を保持していたか	共訳	2001年2月	藍・BLUE 総第2期	摩羅, 2000, 『藍・BLUE』創刊号
16. 宦官中国	共訳	2001年7月	藍・BLUE 総第3期	余傑, 1999, 『文明的創痛』百花文芸出版社 劉幫の筆名で翻訳
17. 国際生涯学習キーワード事典	共訳	2001年9月	東洋館出版社	Federighi, Paolo (ed.), 1998, <i>Glossary of Adult Education</i> , European Association for the Education of Adults. 「アンドラゴジー」「エデュコロジー」「全国教育訓練基金」「全国成人教育協会」「成人学校制度」「補充的専門職業教育」「労働に関連した教育」「フォーク・ハイスクール」「労働者大学/労働者のフォーク・ハイスクール」「毎日の重要なニュース(VIN)」「刑務所内の市民教育」の項目の翻訳
18. 何のための創作か	共訳	2001年12月	藍・BLUE 総第4・5期	ノーベル文学賞受賞の高行健「葎焚担写作」(『傾向』1997年夏、総第9期) 劉幫の筆名で翻訳
19. 彼らは結局何をしようとするのか?	単独訳	2001年12月	藍・BLUE 総第4・5期	艾農「他斯肖捷勳孤焚担」(月刊『中流』1999年11月) 劉幫の筆名で翻訳
20. 人間の証明と歴史の証明	単独訳	2001年12月	藍・BLUE 総第4・5期	王蒙「人証与歴証」『人有病 天知否——一九四九年後中国文壇紀実』(人民文学出版社、2000年9月) 劉行の筆名で翻訳
21. 中国の崩壊	単独訳	2002年4月	藍・BLUE 総第6期	ノーベル文学賞候補の鄭義『中国的毀滅』(明鏡出版社)を紹介する著者自身のオリジナル原稿の日本語訳。劉幫の筆名で翻訳。
22. 台湾『創世紀』詩選	共訳	2002年9月	藍・BLUE 総第7・8期	創世紀詩社の特集で、韞弦と辛鬱の部分を担当。劉幫と劉行の筆名で翻訳。
23. 創世紀森林浴—台湾特有の16種の詩の飛翔を吟味鑑賞する—	単独訳	2002年9月	藍・BLUE 総第7・8期	黄梁が創世紀詩社の特集のために『藍・BLUE』誌に特別に寄稿した中国語オリジナル原稿を劉幫の筆名で日本語訳。
24. 隠匿者の光—中国非主流詩歌の二十年	共著	2002年12月	藍・BLUE 総第9期	中国大陸の評論家徐敬亜の中国語の評論を劉幫の筆名で日本語に抄訳。
25. 王曉明教授誌上対談	共訳	2003年4月	藍・BLUE 総第10期	中国大陸の文学者で上海師範大学教授の王曉明の文学論をインタビュー形式でまとめた中国語を劉幫の筆名で日本語訳。
26. 「家で死ぬか」それとも「病院で死ぬか」—我らの時代のポストモダン的問題—	単独訳	2004年10月	藍・BLUE 第15・16期	中国大陸の文学者で清華大学教授の秦暉の中国語の評論を河内照の筆名で日本語訳。
27. アウシュヴィッツのオーケストラ	共訳	2004年11月	社会教育学研究 第9号 大阪教育大学社会教育論ゼミ	アウシュヴィッツの生存者で国際アウシュヴィッツ委員会副会長カジミェジ・アルビンの自伝の部分訳。
28. “善すぎるあまり真実でなくなる” べきではない—晩期フロイト的な「<自己>教育」の幻想—	共訳	2004年11月	社会教育学研究 第9号 大阪教育大学社会教育論ゼミ	ダニエル・T・オハラ論文の日本語訳。
29. 成都地下文学サロン	共訳	2005年5月	藍・BLUE	陳墨・鄧壬・蔡楚・馮里の中国語文を劉幫の筆名で日本



一「野草」一詩・詩文・回想			第18・19期	語訳。
30. 馬徳升、廖亦武詩選	単独訳	2005年11月	藍・BLUE 第20期	馬徳升と廖亦武の中国語の詩を劉幫の筆名で日本語訳。
31. 「文明」的に私を説得してくださいー胡錦濤氏への公開書簡ー	共訳	2006年5月	藍・BLUE 第21期	龍応台の中国語の評論を劉幫の筆名で日本語訳。
32. 週刊「氷点」の非合法的停刊への公開抗議書簡	共訳	2006年5月	藍・BLUE 第21期	李大同の中国語の評論を劉幫の筆名で日本語訳。
33. 淡瑩詩選	共訳	2006年5月	藍・BLUE 第21期	中国語の詩を劉幫の筆名で日本語訳。

<b>その他Ⅲ (研究ノート等)</b>				
1. バザーとノートづくり：東京・だんだん村少年団	単著	1977年6月 (昭和52年)	少年・少女を育てるために 第147号	実践記録。編集者で少年団活動を発起した作場和子の鞭撻による。
2. 葛飾の地域センター運動	単著	1977年11月	子ども会少年団 第154号	実践記録。『少年・少女を育てるために』誌が153号より改称。作場の鞭撻による。
3. 地域のつながりと「だんだん村」の子どもたち	単著	1977年11月	子ども会少年団 第154号	同上。
4. 遠山常民大学ー地域自治の主体形成にかかわる三つの側面ー	単著	1980年3月	文部省科学研究費補助金研究報告書「生涯教育と高等成人教育」	代表：宮坂広作 生涯教育体制下における高等成人教育に関する理論的・実証的研究
5. 社会教育関係年表	単著	1980年5月	日本社会教育発達史 亜紀書房	編者：碓井正久
6. 企業・労働組合の研究・教育活動	単著	昭和56年1月 1981年	中津川市民の教育・文化・学習の組織ー中間報告ー	岐阜県中津川市教育委員会調査研究プロジェクトの分担の速報
7. 企業と市民	単著	昭和58年1月 1983年	文化学園都市を目指してー調査研究を踏まえてー	岐阜県中津川市教育委員会調査研究プロジェクトの分担の要約
8. 若手研、最近の動向ー社会教育基礎理論研究会(仮)についてー	単著	昭和58年7月 1983年	日本社会教育学会通信、No. 89	
9. 労働者教育	単著	昭和58年12月 1983年	小学館、教育課程辞典(各論篇)	監修：岡津守彦
10. ボランティア精神と自主管理ーユーゴスラヴィア人の「自主管理」にふれてみてー	単著	昭和59年6月 1984年	産業訓練6月号 (日本産業訓練協会)	
11. 高津村(町)の人口・産業・文化ーその統計的把握ー	単著	1984年 昭和59年3月	1930年代の地域変化と社会教育(東京大学教育学部社会教育学研究室編)	調査研究報告
12. 宿題研究・生涯教育政策と社会教育の進行状況	単著	1984年 昭和59年12月	日本社会教育学会通信、No. 95	
13. 宿題研究・生涯教育政策と社会教育-その(4)-	単著	1985年 昭和60年9月	日本社会教育学会通信、No. 98	
14. 学習管理社会とシャドウワーカー生涯教育政策分析のための基礎的前提ー	単著	1985年 昭和60年10月	生涯教育政策と社会教育(日本社会教育学会・宿題研究定例研究会報告集(2))	
15. 高度産業社会における労働・学習・支配の問題	単著	1985年 昭和60年11月	労働社会学研究会会報、No. 6	
16. FUKUZAWA YUKICHI	単著	1985年	<i>International Biography of Adult Education</i>	B. Elsey & J. E. Thomas (eds.)

17. 国民の生涯学ぶ権利をどう保障するか	共著	1986年 昭和61年3月	Department of Adult Education, Univ. of Nottingham, Saxon Printing, Derby, England. 月刊社会教育3月号	座談会
18. 生涯教育政策関連年表	単著	1986年 昭和61年9月	生涯教育政策と社会教育（日本社会教育学会年報第30集）	
19. 自分史を書くこと、読むこと、語ること	単著	1986年 昭和61年9月	'85世田谷市民大学「老後問題」ゼミ・レポート	
20. 神奈川における地域の教育力・文化形成をめざして	単著	1986年 昭和61年12月	県職労地方自治政策研究交流集会資料集、神奈川県職員労働組合	
21. 労働運動の担う生涯学習と地方自治—神奈川における地域の教育力・文化形成をめざして—	単著	1987年 昭和62年1月	県職労地方自治政策研究交流集会報告集No. 1、神奈川県職員労働組合	
22. 日本社会教育学会年報第30集「生涯教育政策と社会教育」合評会の報告	単著	1987年 昭和62年5月	日本社会教育学会通信、No. 104	
23. 文化的再生産論における知識人・研究者の位置—自己分析の論理	単著	1987年 昭和62年7月	教育政策研究月報No. 12	
24. A Selective Bibliography on International Trends of Current Adult Education	単著	1987年 昭和62年9月	社会教育の国際的動向（日本社会教育学会年報第31集）	文献目録
25. 労働者の生活・文化と社会教育	単著	1988年 昭和63年11月	月刊社会教育11月増刊号、国土社	速報
26. 国際交流委員会からのお知らせ	単著	1988年 昭和63年5月	日本社会教育学会通信、No. 107	速報
27. 労働能力開発政策と社会教育システムの再編	単著	1989年 平成1年9月	日本社会教育学会通信、No. 113	速報
28. 日本社会教育学会第36回研究大会	単著	1989年 平成1年12月	教育学研究Vol. 56. No. 4. 日本教育学会	速報
29. 家族の未来像は	共著	1990年 平成2年3月	平成元年度婦人教育セミナー報告書—多様な選択が可能な社会づくりをめざして	報告
30. 生涯学習とアイデンティティ	単著	1991年 平成3年2月	国際婦人教育振興会東京さわやか通信第21号 簡易保険加入者協会東京地方本部受託事業部	報告
31. 生涯学習時代における公民館の役割を考える	単著	1991年 平成3年2月	生涯学習時代における公民館の役割を考える—平成2年度西毛ブロック公民館研究集会のまとめ—	群馬県安中市文化センターでの基調講演要旨、及び基調講演実録
32. 生涯学習と社会教育のひろがり—福祉関連事業にみる関連部局との連携の方向—	単著	1991年 平成3年3月	東京都教育庁生涯学習部	調査研究報告
33. 社会教育の公共性と	単著	1991年	社会教育・図書館学	研究ノート

社会福祉との相関関係 ー社会的不利益者としての受刑者とその教育という視点からー		平成3年3月	研究、No. 15、 東京大学教育学部社会教育学研究室	
34. 児童生徒・教員の学校生活及び意識に関する調査ー中間まとめー	共著	1991年 平成3年6月	坂戸市教育委員会登校拒否等調査研究委員会	調査研究報告
35. 生涯学習と社会教育ー北東北の社会教育実践の現在ー	単著	1991年 平成3年12月	平成3年度秋田大学社会教育主事講習報告書(ふれあい117)	
36. 社会教育の理論Ⅲ	単著	1992年 平成4年1月	日本社会教育学会通信、No. 122	
37. 生涯学習・社会教育指導者の今日的役割とその養成方法に関する調査研究	共著	1992年 平成4年3月	秋田県教育委員会	調査研究報告
38. 登校拒否問題の解決に向けてー調査研究報告書ー	共著	1992年 平成4年3月	坂戸市教育委員会登校拒否等調査研究委員会	調査研究報告
39. 生涯学習と社会教育のひろがりⅡー社会教育活動とコミュニテイ・ボランティアー	共著	1992年 平成4年3月	東京都教育庁生涯学習部	調査研究報告
40. 社会教育を捉えるパースペクティヴー北東北の社会教育実践の現在ー	単著	1993年 平成5年2月	平成4年度秋田大学社会教育主事講習報告書(であい123)	
41. 世代のサイクルと老後問題ゼミ	単著	1993年 平成5年3月	寒梅 世田谷市民大学老後問題自主ゼミナール	
42. ボランティア活動の新しい動向と社会教育ー社会教育職員の役割を探るためにー	共著	1993年 平成5年3月	東京都教育庁生涯学習部	調査研究報告
43. 高齢者の生きがい・精神的健康と社会教育ー東北四県に即してー	単著	1993年 平成5年3月	厚生省老人保健健康増進等事業による研究報告書	調査研究報告
44. 『子どもが健やかに生まれ育つための環境づくり』の推進を図るために	共著	1993年 平成5年3月	秋田県福祉保健部、 秋田県児童環境づくり推進協議会	提言
45. 障害者対象社会教育事業検討委員会中間報告	共著	1993年 平成5年6月	東京都教育庁生涯学習部	調査研究報告
46. Self-directed Learning and Reflective Practitioner	単著	1993年 平成5年6月	『叢書生涯学習』刊行を終えてー課題と展望ー、社会教育基礎理論研究会	
47. 生涯学習社会の中の企業とシニア(1)ーはじめに：シニア、企業、生涯学習ー	単著	1993年 平成5年6月	月刊シニアプラン No. 22.	評論 シニアプラン開発機構(厚生省シンクタンク)月刊誌連載、以下同様
48. 生涯学習社会の中の企業とシニア(2)ーシニアの発達と働くことの意味ー	単著	1993年 平成5年7月	月刊シニアプラン No. 23.	
49. 生涯学習社会の中の企業とシニア(3)家族の中のシニアと生涯学習	単著	1993年 平成5年9月	月刊シニアプラン No. 25.	
50. 生涯学習社会の中の企業とシニア(4)ー	単著	1993年 平成5年10月	月刊シニアプラン No. 26.	

地域社会の中のシニアと生涯学習ー				
51. 生涯学習社会の中の企業とシニア (5)企業の社会貢献と生涯学習	単著	1993年 平成5年12月	月刊シニアプラン No. 28.	
52. 生涯学習社会の中の企業とシニア (6)ーシニアにおけるセクシュアリティー	単著	1994年 平成6年1月	月刊シニアプラン No. 29.	
53. 生涯学習社会の中の企業とシニア (7)ー高齢化社会の形成とシニアの学習ー	単著	1994年 平成6年3月	月刊シニアプラン No. 30.	
54. 琴丘町青年の地域活動活性化プロジェクト報告書	共著	1994年 平成6年3月	琴丘町教育委員会	
55. 登校拒否問題に対する青少年の地域社会教育の果たすべき機能に関する研究	単著	1994年 平成6年3月	平成5年度科学研究補助金一般研究 (C) 研究成果報告書	
56. 生涯学習社会の中の企業とシニア (8) 情報社会の中のシニアの学習	単著	1994年 平成6年4月	月刊シニアプラン No. 31.	
57. 生涯学習社会の中の企業とシニア (9)ー働くシニアの学習とヴォランティア活動ー	単著	1994年 平成6年5月	月刊シニアプラン No. 32.	
58. 生涯学習社会の中の企業とシニア(10) シニアプランの推進と社会的公共性の中の企業	単著	1994年 平成6年6月	月刊シニアプラン No. 33.	
59. ボランティア活動と生涯学習	単著	1994年 平成6年6月	教育時報、No. 55. 東京都立教育研究所	評論
60. 主体的学習と自立・共生をめざしてー障害者の社会教育事業のために	共著	1994年 平成6年6月 全53頁	東京都教育庁生涯学習部	調査研究報告
61. 社会教育の行政と運動Ⅲ	単著	1994年 平成6年12月	日本社会教育学会通信、No. 134	
62. ボランティア活動と公民館	共著	1995年 平成7年1月	第33回東京都公民館大会記録 東京都公民館連絡協議会 pp. 63-68	東久留米市中央公民館で1995年1月22日に開催された東京都公民館連絡協議会主催公民館大会の「ボランティア活動と公民館」分科会で助言者として発言し、記録のまとめにも参加した。
63. 地域・企業・大学が支えるシニアの学習・生きがい	共著	1995年 平成7年2月	シニアプラン開発機構	サラリーマンシニアの生涯学習に関する調査研究報告書
64. 秋田県児童環境づくり推進協議会企画部会報告書	共著	1995年 平成7年3月	秋田県福祉保険部	
65. 学習機会を体系的に提供するための調査研究報告書	共著	1995年 平成7年3月	秋田県生涯学習センター	地域における生涯学習システムに関する研究開発事業調査研究報告書 (1年次目報告書)
66. 生涯学習の町づくりと奨励員活動	単著	1995年 平成7年3月	平成6年度生涯学習奨励員研修報告書、 秋田県生涯学習奨励員協議会	
67. 生涯学習とサラリーマンのアイデンティティ	単著	1995年 平成7年7月	THINK、No. 42.	埼玉総合研究機構 (埼玉県シンクタンク) 調査研究報告誌
68. 今後の奨励員活動の	単著	1996年	秋田県生涯学習奨励	

在り方ー生涯学習の過去と現在を踏まえてー		平成8年2月	員協議会20周年記念誌	
69. 地域における生涯大学システムに関する研究開発事業調査研究報告書	共著	1996年 平成8年3月	秋田県生涯学習センター	地域における生涯大学システムに関する研究開発事業調査研究報告書（2年次目報告書）
70. サラリーマンシニアのための生涯学習モデル事業について	共著	1996年 平成8年3月	シニアプラン開発機構	シニアプラン講座実施報告
71. 主提言：生涯学習社会と学校教育	単著	1996年 平成8年3月	中央地区の教育 第36号、秋田県教育庁中央教育事務所	
72. 研究ノートー成人学習論の諸動向ー	単著	1996年 平成8年4月	社会教育学研究、第3号、秋田大学社会教育学研究室	
73. ボランティア活動と「共生」について	単著	1996年 平成8年5月	コロポックル No. 2	コロポックルの会（秋田県自閉症児の親の会）会報
74. 生涯学習と職業教育・訓練の状況と展望	単著	1996年 平成8年6月	日本社会教育学会紀要、No. 32	
75. 書評：末本誠・小林平造・上野景三編『地域社会教育の創造』	単著	1996年 平成8年6月	日本社会教育学会紀要、No. 32	
76. 伝えたい生命の尊さ	単著	1996年8月	秋田魁新報 8月5日	「心に刻むアウシュヴィッツ展」開催の呼びかけ
77. 書評：ウルリヒ・アムルンク／対馬達雄・佐藤史浩訳『反ナチ・抵抗の教育者ライヒヴァイン』	単著	1996年8月	秋田魁新報 8月26日	
78. 「心に刻む」営みとしてのアウシュヴィッツ展	単著	1996年11月	秋大生活の広場 No. 57 秋田大学生協	
79. 学習活動・教育事業Ⅰ	単著	1996年12月	日本社会教育学会通信、No. 142	速報
80. 広域的学習機会提供及び情報提供のシステムの在り方に関する調査研究	共著	1997年3月	秋田県生涯学習センター	地域における生涯大学システムに関する研究開発事業報告書（3年次目報告書）
81. 従軍慰安婦を二度辱めてはならない	単著	1997年4月	秋教組新聞、第1650号、秋田県教職員組合	
82. 青少年の生涯学習とボランティア活動	単著	1997年6月	豊かさへの旅ーあきたの生涯学習、No. 49、秋田県生涯学習推進本部	
83. 地方分権と社会教育	単著	1997年6月	月刊公民館 第481号	
84. 生きる力を育むPTA活動ー「人間的強さ」と子どもの発達ー	単著	1997年6月	子どもの生きる力を育むために 秋田県教育委員会	平成9年度PTA指導者研修会資料（平成10年度PTA指導者研修会資料に再掲）
85. 心に刻み、未来を見据えー世界遺産の博物館活動とボランティア	共著 (主編)	1997年6月	心に刻むアウシュヴィッツ・秋田展実行委員会	
86. 博物館活動と平和学習	単著	1997年8月	社会教育学研究、第4号、秋田大学大学社会教育学研究室	
87. 語り継ぐアウシュヴィッツー世界遺産への歩み	共著 (主編)	1997年12月	秋田平和学習センター	
88. 課題研究：高齢者の学習	単著	1998年1月	日本社会教育学会通信、No. 146	
89. 子育てハンドブック あんふあんす	共著 (監修)	1998年3月	秋田県生涯学習センター	乳幼児期、小学校低学年、小学校高学年、中学校、青年期の全5冊（1999年度には改訂版を監修）
90. 子育てハンドブック	単著	1998年3月	子育てひろば、秋田	平成9年度家庭教育子育て支援推進事業実施報告書

を監修して			県生涯学習センター	「思春期出前講座」として『はっとあいあきた』No. 42
91. 21世紀に向けた生涯学習と奨励員の役割ー趣味活動の一步先にあるものー	単著	1998年3月	本荘由利地区生涯学習奨励員連絡協議会	9、1998年4月号、pp. 22-24で紹介。 平成9年度生涯学習を進めるための地区研究会実施記録
92. 教育改革と秋田大学社会教育主事講習の改革	単著	1998年3月	平成9年度秋田大学社会教育主事講習報告書 (ふれあいin秋田)	
93. 性差別と性暴力ー日本文化デザイン会議で思ったことー	単著	1998年6月	秋田魁新報、6月19日	
94. 座談会：メディアと女性の人権(司会)	共著	1998年6月	あきたの女性、秋田県婦人会館	座談会の記録と監修
95. 元日本軍慰安婦の証言を聞いて	単著	1998年7月	第六回中国人元慰安婦支援報告書、中国人元慰安婦を支援する会	
96. 総会での報告と発言	単著	1998年10月	総会及び報告会の報告、中国人元慰安婦を支援する会	
97. 秋田県における図書館学教育	単著	1998年10月	1998年全国図書館大会要綱	第12分科会図書館員養成「多様なニーズに応える図書館学研究」(大会記録、1999年3月に再掲)
98. 「生きる力」の育成と対話	単著	1998年12月	広報清流 大曲仙北地域生徒指導研究推進協議会	
99. これまでの50年、そのまへの50年、これからの50年	単著	1999年1月	秋田のユネスコ運動ーきのう、きょう、あしたー	秋田ユネスコ協会設立50年誌
100. ユース座談会「今、私たちが 将来(あした)はみんなで」(司会)	共著 (監修)	1999年1月	秋田のユネスコ運動ーきのう、きょう、あしたー	秋田ユネスコ協会設立50年誌
101. 子どもの生きる力を育むための家庭教育と地域の支援体制に関する調査研究	共著	1999年3月	秋田県生涯学習センター	調査研究報告
102. 人権教育の10年と社会教育の課題	単著	1999年3月	平成10年度秋田大学社会教育主事講習報告書(Document in秋田)	
103. 発達科学選修初年次ゼミ	単著	1999年3月	秋田大学教養基礎教育研究年報、第1号	
104. 労働運動と市民運動との相互発展をめざして	単著	1999年4月	秋田大学社会福祉組合情報誌「あお」No. 1,	秋田大学社会福祉組合は秋田大学退職者の会と連携
105. 日中の歴史の共通認識と平和学習の課題	単著	1999年4月	あお、No. 1, 秋田大学社会福祉組合	「あお」1999年5月14日号外に再掲
106. 戦争被害調査会法を考えるー「国立国会図書館法の一部改正案」をめぐって	共著	1999年5月	戦争被害調査会法を実現する市民会議	シンポジウム報告集における報告と発言
107. 日本における「過去の克服」と平和学習の課題	単著	1999年9月	中国人元慰安婦を支援する会	総会及び報告会における報告
108. 学校図書館を考えるために	単著	1999年9月	いま学校図書館をみつめて、Librarian Ship Club	秋田県学校図書館司書教諭会
109. 国際理解の場へーベトナム音楽コンサートに寄せてー	単著	1999年10月	秋田魁新報、10月5日	ベトナム戦争における米軍の広範に枯れ葉剤を用いた作戦による被害者(環境汚染による健康被害、その子供への再生産的障害)へのチャリティ・コンサートの趣旨を述べ、ボランティアを呼びかけた。
110. 大学図書館と情報リ	単著	1999年12月	図書館だより、No. 46	情報リテラシー教育における大学図書館の役割を論じ

テラシー教育					
111. ベトナム民族アンサンブル・チャリティ・コンサート	単著	2000年1月	秋田大学附属図書館 COUNTRYT, Vol. 17, 秋田県国際交流ネットワーク	た。 前述の枯れ葉剤被害者支援チャリティ・コンサートの成果を報告した。	
112. 人間における悲惨から偉大への転換の条件	単著	2000年1月	秋田いのちの電話, 広報, 第12号	評論	
113. すべての市民に学びあうよるこびを一人権尊重と地方分権の中核市・秋田市の生涯学習振興方策	共著	2000年3月	秋田市生涯学習懇談会	提言	
114. 子どもの生きる力を育む地域活動に関する調査研究	共著	2000年3月	秋田県生涯学習センター	調査研究報告	
115. 平和と人権を守る市民の「とりで」としてーアウシュヴィッツ・ミュージアムの開館ー	単著	2000年3月	世界へ未来へ9条連ニュース, No. 63, 憲法9条ー世界へ未来へ連絡会	評論	
116. ユースの集いを実施して	単著	2000年3月	あきたUNESCO, No. 20 秋田ユネスコ協会	報告	
117. 自主的自治的活動を通じた直接体験と知的活動の統合	単著	2000年3月	平成11年度フレンドシップ事業全国学生シンポジウム報告集信州大学教育学部附属教育実践総合センター		
118. 教職課程における教育内容・方法の開発研究報告ー教育実習を中心にー	共著	2000年3月	秋田大学教育文化学部教員養成研究会	発達科学選修初年次ゼミの目標と方法、ボランティア、図書室（館）を利用した教員養成の部分執筆	
119. 社会教育法の五十年と二十一世紀の社会教育	単著	2000年3月	あきた社教懇通信, 第11号, 秋田県社会教育懇談会		
120. 子どもを育て、自分も育てる「共育」の生涯学習	単著	2000年4月	ぶどうの木, 第18号別冊 秋田桜教会		
121. 「チョンおばさんのクニ」の声読んで、	単著	2000年5月	ふえみん, 5月5日 婦人民主クラブ		
122. 「慰安婦」問題と「象徴的暴力」	単著	2000年7月	自然と人間 第49号		
123. 市民がつくるアウシュヴィッツ平和博物館	単著	2000年7月	i n g, No. 69, イング・ネットワーク		
124. 現代日本の病理に警鐘ー栃木のアウシュヴィッツ平和博物館ー	単著	2000年7月	信濃毎日新聞 7月3日		
125. 『太一のもりのぼうけん』について	単著	2000年7月	にゅうずれたあAkita, No. 10 保育を語る会・秋田／子どもと保育実践研究会秋田地区会		
126. 秋田県社会福祉審議会のあり方に関する検討会報告書	共著	2000年8月	秋田県社会福祉審議会のあり方に関する検討会	調査研究報告と提言	
127. 挨拶	単著	2000年11月	あお, No. 7, 秋田大学社会福祉組合		
128. 雲南滞在記ー教育支援を通してー	単著	2000年11月	秋田魁新報, 11月20日		
129. 本県における家庭教育の振興方策について	共著	2000年12月	秋田県社会教育委員の会議	答申	
130. 「地域子育てフォーラム」を終えて	単著	2001年3月	秋田県児童健全育成地域組織連絡協議会	「地域子育てフォーラム」開催結果報告書	
131. 学校週五日制実施にお	共著	2001年3月	秋田県学校週五日制	調査報告書	

ける秋田県の現状と課題			調査研究委員会	
132. このごろ思い、していること	単著	2001年5月	imagine, No. 1. アウシュヴィッツ平和博物館	
133. 共鳴する談論倫理を目指して	単著	2001年7月	藍・BLUE 総第3期	劉幫の筆名で執筆
134. 鄭義氏における非暴力と「神」への視点	単著	2001年7月	藍・BLUE 総第3期	劉行の筆名で執筆
135. 市民による国際交流	単著	2001年8月	あすの秋田 No. 230.	(社)あすの秋田を創る協会情報誌
136. 「よりよい」自分を求めて	単著	2001年9月	いま、学校から 秋田大学教育文化学部附属小学校	平成13年度実践記録集(公開研究協議会特集)
137. 私たちにとっての平和—テロと軍事行動が進行する中で—	単著	2001年10月	秋田魁新報 2001年10月18日	
138. 塩谷町アウシュヴィッツ平和博物館	単著	2001年11月	くらしと農業 2001年11月号	栃木県月刊総合農業雑誌
139. 中国地下文学と自己教育運動—黄翔の詩と思想—	共著	2001年11月	社会教育学研究、第6号、秋田大学社会教育学研究室	
140. 改革や成果が飛び交う消費社会における生活の質	単著	2001年12月	あお、No. 9、秋田大学社会福祉組合	
141. 自分のための表現について—アイデンティティの認識と混乱の間	単著	2001年12月	藍・BLUE 総第4・5期	
142. 学習者の足を洗う社会教育実践を目指して—「鈴木イズム」の継承と発展	単著	2002年1月	社会教育：来し方、行く末：秋田県社会教育委員連絡協議会結成30周年記念誌	提言
143. 家庭教育の支援について	単著	2002年3月	ひろば、第39号 秋田県中央地区社会教育主事協議会	
144. 「生きる力」を育てる道徳の授業	単著	2002年3月	いま、学校から 秋田大学教育文化学部附属小学校	平成13年度実践記録集 Vol. 3
145. 男女共生と性の多様性	単著	2002年4月	えすてい—む・れた一、VOL. 10、ESTO	
146. 生涯学習社会における社会教育：ノート	単著	2002年5月	2001年度二年次生ゼミ・レポート集	秋田大学教育文化学部教育学研究室
147. アウシュヴィッツを乗り越える一篇の詩	単著	2002年6月	imagine, No. 2. アウシュヴィッツ平和博物館	
148. 生涯学習社会と大学開放	単著	2002年10月	秋田魁新報 2002. 10. 9.	
149. 梅と桜	単著	2002年10月	秋大ネット No. 1227	
150. 歴史を記録すべき国立国会図書館の歴史について	単著	2002年11月	市民会議ニュース No. 95 戦争被害調査会法を実現する市民会議	『市民会議通信』No. 22(2002年12月)に再掲。 歴史のリアルな認識を学ぶために—国立国会図書館創設時の状況の第一篇に当たる
151. 神は戦争責任をどう見るのだろうか？	単著	2002年12月	ぶどうの木、第22号 秋田桜教会	
152. 歴史のリアルな認識を学ぶために—国立国会図書館創設時の状況	単著	2002年12月	市民会議ニュース No. 96 戦争被害調査会法を実現する市民会議	『市民会議通信』No. 23(2003年3月)に再掲



153. 子育てから地域づくりを考えよう	共著	2003年1月	第52回秋田県公民館大会記録ー魅力ある地域づくりはあなたの力で	シンポジウムの報告「ボランティアをあなたならどう活かす」と発言記録
154. 仕事と家庭の両立について	単著	2003年3月	平成14年度職場イキイキ応援事業、秋田県男女共同参画課	講演要旨
155. 男女共同参画社会づくり	単著	2003年3月	第44回全国社会教育研究大会	部会における助言
156. 女性に対する暴力の根絶に向けて	単著	2003年3月	男女共同参画グローバル政策対話秋田会議録	分科会でのコーディネーターとしての発言
157. 生涯学習に関する県民の意識と活動の実態調査	共著	2003年3月	秋田県生涯学習センター	調査報告と提言
158. 秋田大学教育文化学部FD活動報告書	共著	2003年3月	秋田大学教育文化学部FD推進委員会	コメントと発言
159. 歴史のリアルな認識を学ぶためにー国立国会図書館創設時の状況(No. 3)	単著	2003年4月	市民会議ニュース No. 99	『市民会議通信』No. 24(2003年6月)に再掲
160. 跨越語言ー日中現代文学交流の報告ー	単著	2003年4月	戦争被害調査会法を実現する市民会議 秋田大学学報	
161. 国境を越える教育支援	単著	2003年5月	シャクナゲ、第8号、雲南の子どもたちの教育を支援する会	中国語訳『アイデンティティと戦争』に訳されて掲載
162. 一犬形に吠ゆれば、百犬声に吠ゆ	単著	2003年5月	電子週刊日本僑報 5月10日号	
163. シンポジウムを開催して	単著	2003年7月	どこかおかしー色報道ー拉致問題を考えるシンポジウム報告集	
164. ボランティア教育の社会的意義	単著	2003年8月	秋田魁新報 2003年8月29日	
165. わたしの学び、わたしの提言ー学びの充実とひろがりをめざして	単著	2003年10月	生涯学習・社会教育を考える県民の集い(記録集)あきた社会教育懇話会	フォーラムの助言
166. ごあいさつ	単著	2004年1月	imagin 04年1月14日号 アウシュヴィッツ平和博物館(白河市)	
167. 馬王堆で五星視行に触発されて	単著	2004年1月	藍・BLUE 総第13期	劉焯の筆名で発表
168. 戦争の罪責を認め尊厳の回復へ	単著	2004年5月	婦人通信 No. 551	
169. カミカゼとサムライの間ー青島での歓談からー	単著	2004年5月	藍・BLUE 総第14期	河内照の筆名で発表
170. コラム・希望への扉	単著	2004年9月	あきたUNESUCO No. 28	
171. 東アジアの共同性の基礎ー歴史の共通認識をめぐる隣国の友人への手紙ー	単著	2004年10月	東京大学大学院2004年度社会教育学基礎理論Vゼミレポート集	同時代HPに再掲。『平和友の会だより』(京都、立命館大学教職員会館内)05年4月号、5月号に再掲。
172. 「晩期フロイト的な『<自己>教育』の幻想」を読む	単著	2004年11月	社会教育学研究 第9号 大阪教育大学社会教	

173. 音楽と平和の文化 —アウシュヴィッツ・シ ュライニング/04.05—	単著	2004年11月	育論ゼミ 社会教育学研究 第9号 大阪教育大学社会教 育論ゼミ	
174. 新しい出会いと交流 の広がり—アウシュヴィ ッツ&シュライニング	共著	2004年11月	アウシュヴィッツ平 和博物館	編集し、「アウシュヴィッツを乗り越える詩と音楽」を 分担執筆。
175. 新年の挨拶	単著	2005年1月	imagine, Vol. 5	アウシュヴィッツ平和博物館理事長として
176. 足を洗う社会教育実 践	単著	2005年1月	あきた青年広論 第87号	
177. 自著紹介—希望への 扉—	単著	2005年5月	世界へ未来へ9条連 ニュース、No. 125	
178. 地域から世界へ—命 と平和の情報発信	単著	2005年6月	文化福島 2005年6月号	
179. 歴史認識と平和教育	単著	2005年7月	平和教育、No. 68	
180. 今、社会教育に問わ れていること	単著	2005年9月	月刊社会教育、 No. 599	
181. 危ない教科書採択を めぐって	単著	2005年10月	みんなで止めよう！ 教育基本法改悪4.16 全関西の集い 報告集 同時代社HP	2005年4月16日、大阪市北区区民ホールにおける報告
182. 「タマちゃん」と 「白装束」：戦争に目を 向けさせず戦争を行うた めのプロバガンダ	単著	2005年12月		
183. 新年の挨拶	単著	2006年1月	imagine, Vol. 9	アウシュヴィッツ平和博物館理事長として
184. 「ライブドアショッ ク」から見えてくるもの	単著	2006年2月	同時代社HP	
185. 社会教育法と生涯学 習振興法の相互連関	共著	2006年3月	大阪教育大学生涯学 習教育センター年報 No. 6	
186. アウシュヴィッツを 語り継ぐ意義	単著	2006年5月	imagine, Vol. 10	
187. 詭弁を見抜く学習と 教育	単著	2006年5月	月刊社会教育、 No. 608、06年6月号	
188. 教育再生会議「いじめ 問題への緊急提言」について	単著	2006年12月	同時代社HP	
189. 新年の挨拶	単著	2007年1月	imagine, Vol. 13	アウシュヴィッツ平和博物館理事長として 佐藤直子記者文
190. 「STOP！いじめ—あ なたへ」	談話	2007年1月	東京新聞 2007年1月8日	
191. 上に政策あれば、下 に対策あり：教育基本法 改定のねらい	単著	2007年3月	子どもの本棚 No. 461	その後、加筆、再構成して同時代社HPに掲載
192. 憲法改定と醜い国	単著	2007年3月	同時代社HP	
193. 書評：人間選別工場 (斎藤貴男、同時代社、 2006年)	単著	2007年3月	月刊社会教育	
194. 上に政策あれば、下 に対策あり：「人民の 力」に寄せて	単著	2007年3月	人民の力、849号、 850号、07年3月1 日、3月15日	『子どもの本棚』掲載論文に加筆、再構成
195. ライフヒストリーと ヒストリカル・モメント に関する予備的研究(1) —塚田一敏へのインタビ ュー—	共著	2007年4月	社会教育学研究 第12号 大阪教育大学社会教 育研究室	
196. 平和のための母の日 ：原点が存在する	単著	2007年6月	人民の力、855号、 07年6月1日	
197. 書評：中国変動社会	単著	2007年6月	日本社会教育学会紀	

の教育(牧野篤、勁草書房、2006年)			要、No. 43	
198. 私の愛する郷土	単著	2007年7月	みおつくし、第17号 放送大学大阪学習センター	巻頭言
199. 生涯教育と自己教育	単著	2007年11月	天遊、第8号 2007年秋	大阪教育大学広報誌
200. 学び、闘い、創る自己教育	単著	2008年1月	人民の力、868号	
201. 新年の挨拶	単著	2008年1月	imagine, Vol. 17	
202. 「最も実践的な末端」について	単著	2008年3月	人民の力、872号	同時代社HP再掲
203. 「最も実践的な末端」こそ最も確実な立脚点	単著	2008年4月	人民の力、873号	
204. 本学学生のかかわるトラブルについて	単著	2008年4月	大阪教育大学全学FDシンポジウム「学生の笑顔を見るために」 学生支援実施委員会第1期・第2期のまとめ	07年11月9日付日経新聞の葛西敬之「教員定員増より質向上を」における「資質、能力の高い教員を確保する際の決定的な障害は、中世のギルドによるマイスター制さながらの教育学部優先の免許制度」等に言及した。
205. 学生支援実施委員会委員の声	単著	2008年4月	社会教育学研究第14号 大阪教育大学社会教育研究室	
206. ライフヒストリーとヒストリカル・モメントに関する予備的研究(2) —藤田秀雄の戦中日記を中心に—	単著	2008年4月	人民の力、879号	
207. 秋葉原無差別殺傷事件に思う	単著	2008年7月	人民の力、880号	205と206の「秋葉原無差別殺傷事件に思う」を合わせ、加筆修正して同時代社HPに掲載。
208. 秋葉原無差別殺傷事件に思う(続き)・象徴的暴力に対する明確な認識の必要性	単著	2008年7月	人民の力、880号	
209. 教育の状況と課題：大分教員汚職事件を手がかりに	単著	2008年9月	状況、2008年10月号	
210. 新自由主義の欺瞞：自由は搾取や支配と闘う生き方にこそある	単著	2008年12月	人民の力、890号	『新聞O』No. 107、09年1月17日に転載。
211. 田口清克氏を追悼して：「鈴木イズム」の実践	単著	2008年12月	あきた青年広論第95号	提言
212. 目は世界を見据え、足は地域に根ざし	単著	2009年1月	アウシュヴィッツ平和博物館5周年の歩み	
213. 新年の挨拶	単著	2009年1月	imagine, Vol. 21	
214. ホロコーストとナクバ：イスラエルのガザ侵攻について考える	単著	2009年1月	人民の力、891号	評論
215. いまこそ資本主義の根本的な検討を：危機克服の道	単著	2009年2月	世界へ未来へ9条連ニュースNo. 170	評論
216. ライフヒストリーとヒストリカル・モメントに関する予備的研究(3) —藤田秀雄の戦中日記を中心に・続—	単著	2009年3月	社会教育学研究第16号	研究ノート
217. ホロコーストとナクバーホロコースト教育を	単著	2009年3月	社会教育学研究第16号	研究ノート

めぐる問題ー					
218. 21世紀の無手勝流：憲法九条	単著	2009年5月	人民の力、897号	評論	
219. 性暴力ゲーム反対と憲法九条堅持	単著	2009年5月	同時代社HP	評論	
220. 最も実践的な末端：続・性暴力ゲーム反対と憲法九条堅持	単著	2009年6月	同時代社HP	評論	
221. 人民の人民による人民のための歴史を創造する「尾翼」	単著	2009年7月	人民の力、902号	評論	
222. 鈴木正『九条と一条ー平和主義と普遍的妥協の精神』（農文協、二〇〇九年）を読む	単著	2009年9月	人民の力、905号	書評	
223. 『潜入盗測：外邦測量・村上手帳の研究』を読む	単著	2009年11月	同時代社HP	書評。その後、一部が『潜入盗測：外邦測量・村上手帳の研究』紹介の葉に再掲。	
224. 小林多喜二『党生活者』ー『蟹工船』とともに	単著	2009年11月	季報唯物論研究第110号	書評	
225. 東アジアの人民の人民による人民のための政治	単著	2010年1月	人民の力、第912号	評論	
226. 黒沢惟昭『生涯学習とアソシエーション：三池、そしてグラムシに学ぶ』	単著	2010年6月	日本社会教育学会紀要、No. 46	書評	
227. 所感ー非教育についてー	単著	2010年8月	非「教育」を考える資料集	『非「教育」の論理』執筆者を囲む懇談会、明治大学、エルゴナジー研究会、日本産業教育学会関東支部	
228. 各先生の書評に関する所感	単著	同上	同上	同上	二つとも、日本産業教育学会関東地区部会、エルゴナジー研究会『東日本大震災と職業訓練討論会資料集』（2011年8月6日、仙台）に再掲。
229. 権力は腐敗する・人民は立ち上がるー「反日デモ」を手がかりにー	単著	2010年11月1日	人民の力、第930号		
230. 『アイデンティティと時代』を出版して	単著	2010年11月8日	同時代社HP		その2、その3と続いて掲載。『社会教育学研究』第20号、2011年2月に、加筆修正して掲載。
231. 大阪教育大学第33回人権教育全学シンポジウム「変わる若者の労働と権利」受講生会議感想文集	共著	2011年1月	シンポジウム参加者		2010年12月9日、八尾市文化会館ブリズムホールでのシンポへの学生の感想文集。編集し、「学習→発表(実践)→記録化→さらなる学習→のスパイラル」を分担執筆。
232. 大阪教育大学第33回人権教育全学シンポジウム「変わる若者の労働と権利」パネルディスカッションでの司会としての発言	単著	2011年3月	実践教育研究大阪教育大学第6号	実践記録	
233. テキストとしての『アイデンティティと時代』：自己形成の自己分析の対象化、教材化と授業実践	単著	2011年2月	『社会教育学研究』第20号	研究ノート	
234. 東京・亀有と大阪・住吉の学生セツルメントに注目して	単著	2011年4月	社会教育学研究』第21号	研究ノート	
235. 碓井正久の「トレー	単著	2011年4月	『社会教育学研究』	研究ノート	

「ガー」と倉内史郎の「適応」から社会教育基礎理論研究会への経緯—宮原教育学の継承・発展に関連して—			第21号,	
236. 公民館の原点	単著	2011年8月	月刊社会教育 No. 670	評論
237. 各人の自由な発展が万人の自由な発展の条件となるアソシエーション	単著	2012年1月	人民の力、第956号	評論
238. 「力」への信仰をのり越えるために	単著	2012年1月	imagine, Vol. 33 アウシュヴィッツ平和博物館	シリーズ「若者たちと平和」の④として寄稿。加筆して、ブログ「塚アピール：教育基本条例案撤回」に「力ではなく協力こそ一力への期待を乗り越える協同社会—」として再掲。
239. 自己形成の自己分析の自己分析のために (1) : 『アイデンティティと時代』(同時代社、2010年)に即した対話	単著	2012年2月	『社会教育学研究』第23号	研究ノート
240. 自己形成の自己分析の自己分析のために (2) : 『アイデンティティと時代』(同時代社、2010年)に即した対話	単著	2012年7月	『社会教育学研究』第24号	研究ノート
241. 岡本論文と東野レポートを読んで	単著	2012年7月	『社会教育学研究』第24号	評論
242. 教養学科FDシンポジウム報告書・教育の質の向上にむけて	単著	2012年10月	大阪教育大学教養学科FD推進委員会	2012年3月8日のシンポジウムでの司会としての発言。
243. 社会教育・生涯学習辞典	共著	2012年11月	朝倉書店	「相互承認・相互主体性」、「高齢者の就労」、「高齢者・老人」、「シニア」、「平和教育」、「平和の文化」の項目を分担執筆。
244. 否定の否定の弁証法—搾取や支配をはね返す力—	単著	2013年1月1/15日	人民の力 978号	
245. 中国・広州にて	単著	2013年3月	所報—社会教育・生涯学習の研究—第19号 社会教育・生涯学習研究所	
246. 研究報告・愛染園セツルメントの活動	共著	2013年5月24日	おおさか社会福祉史研究会ニュースレター、Vol. 5	岡本周佳との共同研究報告の要約。
247. 自己形成の自己分析の自己分析のために (3) : 『アイデンティティと時代』(同時代社、2010年)に即した対話	単著	2013年3月	『社会教育学研究』第27号	研究ノート
248. 原点としての「人民」	単著	2014年1月1/15日	人民の力 1000号	評論
249. 自己形成の自己分析の自己分析のために (4) : 『アイデンティティと時代』(同時代社、2010年)に即した対話	単著	2014年3月	『社会教育学研究』第30号	研究ノート

250. セツルメントと知行合一の精神：「這い回る経験主義」と「最も実践的な末端」に着目して	単著	2014年3月	『社会教育学研究』第30号	研究ノート
251. 風立ちぬ／風は思いのままに吹く	単著	2014年10月	月刊社会教育 No. 709 11月号	評論
252. 限界状況における安全に関する考察：アイデンティティと人間的強さの観点による日本と海外のプレーヤーの経験論的比較	共著	2014年10月	『社会教育学研究』第30号	研究ノート
253. われらは遠くから来た、そして遠くまでいくのだ……	単著	2015年1月1/15日	人民の力 1022号	評論
254. 秋田で鈴木健次郎に学び、大阪で研鑽し、活用	単著	2015年3月	あきた青年広論 107号	評論
255. 「最も実践的な末端」におけるアクション・リサーチ	単著	2015年4月	報告集「宮原社会教育論と現代」研究フォーラムー信濃生産大学は何を残したか社会教育・生涯学習研究所	研究ノート
256. 自分史と貴重な記録と生涯学習	共著	2015年7月	社会教育学研究 第33号 pp. 1-37	近衛師団将校・宮城正門儀仗兵指揮官の荻野清隆の自分史を編集した。
257. 安全と社会教育実践ー生涯（ライフ）の基盤の力と徳ー	共著	2015年7月	社会教育学研究 第33号 pp. 38-55	横山明美との共同研究ノート・資料
258. 守口市地域コミュニティ拠点施設検討会議の到達点における今後の公民館及び地区体育館のあり方」答申	共著	2015年10月	大阪府守口市教育委員会 全28頁	大阪府守口市社会教育委員として公民館、体育館の役割や機能をアクション・リサーチとして検討した結果をまとめた。
259. 学生セツルメントに関する資料を読むために	単著	2015年12月	社会教育学研究 第35号	研究ノート
260. 東大セツルメント・亀有セツルメント資料目録：創生期、及び1970年代を中心として	共著	2015年12月	社会教育学研究 第35号	堂本雅也と作成した資料目録
261. はじめに	単著	2016年3月	平成27年度健康科学研究修士論文抄録 大阪教育大学大学院健康科学専攻 目次の前のページ数のないページ	専攻主任として研究方法論に即して執筆。
262. 平成28年度社会教育主事講習研究集録	共編著	2016年11月	社会教育主事講習運営委員会 全231頁 同別冊、全289頁	文部科学省主催・大阪教育大学委嘱の近畿6府県社会教育主事講習の社会教育演習（グループワーク）を中心として実践記録である。私は主任講師として「『過現未』で社会教育主事講習を考えるー今日は昨日の我に勝とうー」（p. 3）を分担執筆した。
263. はじめに	単著	2017年3月	平成27年度健康科学研究修士論文抄録 大阪教育大学大学院健康科学専攻 目次の前のページ数のないページ	専攻主任として研究方法論に即して執筆。

264. 純白の雪国に舞い降りた白鳥と「煙仲間」	単著	2017年4月	あきた青年広論第110号 pp. 1-6	戦後、公民館を中心とした社会教育の発展に貢献した鈴木健次郎の意義を解説した。
265. 博物館準備室の総括に向けて	単著	2018年1月	博物館と生涯教育第6号 pp. 35-60	大阪教育大学において博物館学芸員の養成に果たした博物館準備室の意義についてまとめた。
266. 研究の研究ノート—アクション・リサーチと研究の民主化—	単著	2018年8月	社会教育学研究第42号 pp. 11-49	研究ノート
267. 五十嵐頭思想・詩想と実践—アクション・リサーチ的補論—	単著	2018年8月	社会教育学研究第42号 pp. 49-59	研究ノート
268. 安全と社会教育実践—外交講座（2017年度後期～2018年度前期）の実践報告	編著	2018年8月	社会教育学研究第42号 pp. 59-105	実践報告
269. 健康な生涯のためのアクション・リサーチ—「人間的強さ」の向上のために—序	単著	2018年9月	社会教育学研究第43号 p. 1	総評
270. 「思想史としての亀有セツルメント保健部五年史」を読む	単著	2018年9月	社会教育学研究第43号 p. 13-15	研究ノート
271. 「絶対矛盾的自己同一」の実践倫理—鈴木庫三「人格と道德生活」を読む—	単著	2018年9月	社会教育学研究第43号 pp. 44-55	研究ノート
272. 博物館と生涯教育・学習の人間学的認識のために—研究ノート—	単著	2018年10月	博物館と生涯教育第7号 pp. 1-31	研究ノート
273. 博物館準備室の総括に向けて	単著	2018年10月	博物館と生涯教育第7号 pp. 32-92	I 盛田文庫、II 学生セツルメント関連資料、III 平和教育関連資料—五十嵐頭思想・詩想と実践—
274. 社会教育実践の「過現未」—アクション・リサーチのノート—	単著	2018年12月	博物館と生涯教育第8号 pp. 28-50	研究ノート
275. 博物館準備室の総括に向けて	単著	2018年12月	博物館と生涯教育第8号 pp. 51-53	亀有セツルメント1974年度新歓ビラ、実名入りの資料に関する研究ノート
276. 2019年度前期生涯教育組織論演習ゼミ論集	共著	2019年9月	社会教育学研究第45号 pp. 1-46	社会教育、生涯学習、企業内教育、高齢者教育、看護教育、ソーシャルワーク、食育、居住環境をよりよい生（ライフ）と健康の観点でまとめた共同研究の総説「はじめに」を分担執筆。
277. 社会教育学会の国際交流からグローバリゼーションにおける社会教育実践へ—アクション・リサーチのノートと資料—	単著	2019年9月	社会教育学研究第45号 pp. 47-52	グローバリゼーションの進展において1980年代の社会教育学会の幹事・国際交流委員から2010年代の大阪教育大学における外務省外交講座までのアクション・リサーチをまとめた。
278. 経緯—「平和憲法学習会」を踏まえて—渡部豊彦遺稿「男鹿における中国人及び朝鮮人の強制連行・強制労働～「船川事件」はなぜ起きたのか？～	単著	2019年9月	社会教育学研究第45号 pp. 53-56	渡部豊彦のライフワークの遺稿「男鹿における中国人及び朝鮮人の強制連行・強制労働～「船川事件」はなぜ起きたのか？～」について「平和憲法学習会」を踏まえて経緯を述べ、意義を明らかにした。
279. 毛沢東主導「社会主義教育運動」における「殺人」に関するノート	単著	2019年9月	社会教育学研究第45号 pp. 83-98	暴力革命でプロレタリア独裁の権力を掌握した毛沢東は主導した「社会主義教育運動」において「殺人と証拠隠滅」を指示したことを資料に基づいて明らかにし、それ

と資料—小川利夫「公民館三階建」構想と中国の文化宮の関連性の考察のために—				が中国の文化宮を介して小川利夫「公民館三階建」構想に関連することを論じた。
280. 藤田秀雄『戦中戦後少年の日記 1944—45年』を現代の中学生が読む—研究ノートと資料—	単著	2019年10月	社会教育学研究第46号 pp. 83-92	『戦中戦後 少年の日記 1944—45年』
281. 『「わだつみのこえ」に耳を澄ます—五十嵐頭思想・詩想と実践—』補論	単著	2019年10月	社会教育学研究第47号 pp. 75-84	
282. 鈴木庫三学位論文「人格と道徳生活」第五篇「眞の愛国主義」を学生とともに読む—2019年度博物館実習において—	単著	2019年11月	博物館と生涯教育第9号 pp. 20-42	
283. 博物館準備室の総括に向けて	単著	2019年11月	博物館と生涯教育第9号 pp. 43-51	
284. 令和元年度社会教育主事講習研究集録	共編著	2019年12月	社会教育主事講習運営委員会 全288頁 同別冊、全320頁	文部科学省主催・大阪教育大学委嘱の近畿6府県社会教育主事講習の社会教育演習（グループワーク）を中心として実践記録である。私は「ゴールは新たなスタート—社会教育主事を育てる社会教育主事に向かって—」（p. 288）を分担執筆した。 2012年から続けてきた外務省外交講座の発展
285. アイデンティティと平和：日中韓の人間像の比較考察と相互理解の教育実践を通して—	共著	2020年2月	社会教育学研究第50号 pp. 1-48	
286. 自己形成の自己分析の自己分析のために（5）—沈黙に耳を澄ます—研究ノート—	単著	2020年2月	社会教育学研究第50号 pp. 49-72	『アイデンティティと時代』の発展で、川上徹から私への世代のサイクルに柏崎千枝子や三島由紀夫のライフ／ストーリーを交叉させた。
287. 日本的アイデンティティの形成と教育に関する研究：民俗学を切口に	共著	2020年3月	社会教育学研究第51号 pp. 15-37	丸本章博との共著である。
288. 自己形成の自己分析の自己分析のために（6）—『希望への扉—心に刻み伝えるアウシュヴィッツ—』に即して—	単著	2020年3月	社会教育学研究第51号 pp. 38-61	『アイデンティティと時代』の発展で、川上徹から私への世代のサイクルについて「心に刻むアウシュヴィッツ」秋田展の実践に即して述べた研究ノート。
289. 日本の青年・学生の心理歴史的な研究ノート—世代的アイデンティティと世代のサイクルに自己分析を交叉させて—	単著	2020年8月	社会教育学研究第52号 pp. 13-95	『アイデンティティと時代』の発展で、川上徹から私への世代のサイクルを青年・学生の心理歴史的な研究に位置づけた。
290. 第一次アウシュヴィッツ巡回展について（研究ノート）	共著	2021年6月	社会教育学研究第53号 pp. 85-104	第一次アウシュヴィッツ巡回展の初年度、1971年度に関する回想を中心に記録をまとめた研究ノート。
291. 外の現象と内の心理の絡みあい：書評『黒死病』（不二出版）	単著	2021年7月	図書新聞 2021年7月3日 5面	加藤秀造の中篇を編集した『黒死病』の書評である。
292. ライフ・ヒストリーとヒストリーの先鋭的な交叉（宗邦洋「振りかえる道：原点は三池闘争」	単著	2021年10月	社会教育学研究第54号 p1	『社会教育学研究』第54号形成の宗邦洋「振りかえる道：原点は三池闘争」の「解説」



の解説) 293. 日本共産党六全協後の 関西地方活動家会議の 考察：戦後のスパイ・リ ンチ事件への宮本顕治の 黙認・追認に着目して 294. 日本の青年に関する 心理歴史的研究ノート・ I：若衆・若勢・若連中 ・若者・娘などから青年 へ 295. 「モンスター」や 「イジメ」の要因の考察 と解決策の提案	単著	2021年10月	社会教育学研究 第54号 p34-49	1955年7月27-29日の日本共産党第六回全国協議会（六全協）の後の「関西地方活動家会議」の速記録（由井・山田版）に関する考察である。
	単著	2022年2月	社会教育学研究 第55号 p16-	宮原教育発展史観の発展のための研究ノートである。
	単著	2022年3月	綜芸：高野山大学教育 学科紀要 創刊号 p81-105	山田がセツラーであった時期からの実践報告である。高度経済成長後の日本社会に現象した過保護の世代から「自己中」が生成し、その世代が成人になり過度に自己中心的な「モンスター」が現れ、そのプロセスは「ゲバレット」～校内暴力～「イジメ」と関連していることを心理歴史的に析出し、この解決には「徳＝力（virtue）」の育成が重要であり、そのためには生きる力の徳育が重要かつ必要であると提起した。

#### 学務・運営関連

1991年度	文部省主催秋田大学委嘱・社会教育主事講習副主任講師
92年度	秋田大学公開講座委員（2000年度まで） 同 教育学部教務委員
93年度	秋田大学大学院教育学研究科学務委員 同 教育学部総合基礎教育実施検討委員
94年度	秋田大学教育学部教育学研究室主任 同 社会情報コース専門委員 文部省主催秋田大学委嘱・社会教育主事講習主任講師
95年度	秋田大学教育学部総合基礎教育実施検討委員 同 社会情報コース専門委員
96年度	秋田大学学校図書館司書教諭講習講師 同 教育学部就職委員
97年度	秋田大学教育学部教務委員長 文部省主催秋田大学委嘱・社会教育主事講習主任講師 文部省主催秋田大学委嘱・学校図書館司書教諭講習講師
98年度	文部省主催秋田大学委嘱・社会教育主事講習主任講師 文部省主催秋田大学委嘱・学校図書館司書教諭講習講師
99年度	秋田大学公開講座委員会委員長 同 教育文化学部就職副委員長 文部省主催秋田大学委嘱・学校図書館司書教諭講習講師
2000年度	秋田大学公開講座のあり方検討専門委員会委員長 同 生涯学習推進委員会委員 同 教育文化学部就職委員長代行 同 教育文化学部学校教育課程主任 文部省主催秋田大学委嘱・学校図書館司書教諭講習講師
01年度	秋田大学大学院教育学研究科学学校教育専修主任 秋田大学生涯学習推進委員会委員 同 自己点検評価実施検討専門委員会ワーキンググループ協力委員 同 附属図書館機能検討専門委員会委員 同 教育文化学部就職委員長代行 文部省主催秋田大学委嘱・学校図書館司書教諭講習講師
02年度	秋田大学地域貢献推進連絡会議委員 同 生涯学習推進委員会委員

- 同 生涯学習推進委員会委員
- 同 教育文化学部生涯学習推進委員会委員長
- 同 教育文化学部就職委員長代行
- 文部省主催秋田大学委嘱・学校図書館司書教諭講習講師
- 03年度 秋田大学生涯学習推進委員会委員
  - 同 教育文化学部学校教育課程主任
  - 同 教育文化学部生涯学習推進委員会委員長
- 文部科学省主催秋田大学委嘱・社会教育主事講習主任講師
- 04年度 大阪教育大学生涯学習教育研究センター運営委員
  - 同 教育実践総合センター運営委員
- 05年度 大阪教育大学教養学科運営委員・生涯教育計画論講座主任
- 06年度 大阪教育大学学生支援実施委員会委員 ～07年度
- 07年度 大阪教育大学教養学科運営委員・生涯教育計画論講座主任
- 09年度 大阪教育大学教養学科FD委員
- 09年度 大阪教育大学教養学科運営委員・生涯教育計画論講座主任
- 10年度 大阪教育大学人権教育推進委員
  - ～2019年度
- 11年度 大阪教育大学教養学科運営委員・人間科学講座主任  
教養学科「教養教育ハンドブック」作成ワーキンググループ主任
  - ～2019年度
- 12年度 大阪教育大学入試企画委員 ～13年度  
大阪教育大学入試実施委員 ～13年度  
大阪教育大学教養学科運営委員・人間科学講座主任・人間科学専攻代表
- 14年度 大阪教育大学人権委員会委員～16年度
- 14年度 東京オリンピック・パラリンピック連携推進ワーキンググループ委員
  - ～現在に至る
- 15年度 大阪教育大学大学院健康科学専攻主任～16年度
- 16年度 文部科学省主催大阪教育大学委嘱・近畿圏社会教育主事講習主任講師
- 19年度 文部科学省主催大阪教育大学委嘱・近畿圏社会教育主事講習運営委員
- 20年度 高野山大学教育学科入試委員
- 21年度 高野山大学教育学科図書館長

### 社会貢献活動

- 1980～82年度 岐阜県中津川市社会教育調査委員会研究協力者
- 84年度 東京都生活文化局消費者問題研究会共同研究者
- 90～91年度 埼玉県坂戸市登校拒否等調査研究委員会委員
- 90～93年度 東京都教育庁生涯学習部生涯教育基礎研究検討委員
- 91～2003年度 秋田県社会福祉審議会委員
- 91～92年度 秋田県教育委員会生涯学習・社会教育指導者の今日的役割とその養成方法に関する調査研究調査研究委員
- 92～93年度 東京都教育庁生涯学習部障害者の社会教育に関する研究会検討委員長
- 92～00年度 秋田県児童環境づくり推進協議会委員
- 93年度 秋田県琴丘町、青年の地域活動活性化プロジェクト委員会座長
- 93～95年度 シニアプラン開発機構（厚生省関連シンクタンク）生涯学習委員会委員
- 94～96年度 秋田県教育委員会、生涯大学システム検討委員会委員
- 94年度一 『月刊社会教育』編集協力委員 ～現在に至る
- 95年度一 秋田市生涯学習懇談会委員
- 95～00年度 秋田市公民館運営審議会委員
- 97～03年度 あすの秋田を創る生活運動協会推進委員
- 98～01年度 秋田ユネスコ協会理事
- 98～03年度 秋田県民カレッジ運営委員
- 98～03年度 秋田いのちの電話（2001年度よりNPO）監事
- 99年度 秋田大学社会福祉組合幹事長
- 99～03年度 秋田県社会教育委員の会委員
- 2000年度 秋田県社会福祉審議会のあり方に関する検討委員会委員、  
秋田県学校週五日制調査研究委員会委員
- 2000～08年度 中国江西省九江高等師範学院客員教授（03年度から九江大学客員教授）
- 2000～03年度 秋田大学社会福祉組合理事長  
秋田県福祉保健研修センター運営委員会委員長

	NPO法人アウシュヴィッツ平和博物館理事
	日本雲南聯誼協会（2001年度よりNPO）理事
01-03年度	秋田県ボランティアセンター運営委員
02年度	第44回全国社会教育研究秋田大会助言者
	男女共同参画グローバル政策対話秋田会議コーディネーター
	平成14年度秋田県生涯学習関連調査研究委員会委員長
	平成14年度秋田県図書館振興調査研究委員
02-03年度	秋田保護司選考会委員 ～03年度
02-03年度	秋田県社会福祉審議会委員長
03年度	あすの秋田を創る会理事
03年度	あきた青年公論名誉会員
	～現在に至る
03-08年度	NPO法人アウシュヴィッツ平和博物館理事長
05年度	第6回東アジア成人教育フォーラム実行委員
05-10年度	放送大学大阪学習センター客員教授
09-13年度	NPO法人アウシュヴィッツ平和博物館副理事長 ～13年度
11年度	大阪府守口市財団法人守口市文化振興事業団評議員選定委員会委員（座長）
11年度	堺市「自由都市・堺 平和貢献賞」受賞候補者推薦人
	～現在に至る
12年度	「宮原社会教育論と現代」研究フォーラム呼びかけ人
12-13年度	社会教育・生涯学習研究所運営委員
13年度	大阪府守口市社会教育委員
	～現在に至る
15年度	大阪日台交流協会理事・監事
	～現在に至る
17年度	大阪府守口市財団法人守口市文化振興事業団評議員選定委員会委員
2018年8月21日	堺と台北の長寿社会地域ケア包括ケア推進に関するアクション・リサーチ的交流の指導・助言（堺市役所、特別養護老人ホーム「年輪」地域連携推進室にて）
2019年4月5日	奈良県医師会看護専門学校入学式での挨拶
2020年3月	医療法人財団ひこばえ会評議員
	～現在に至る
2021年1月3日	大人のピアノ研究会顧問
	～現在に至る